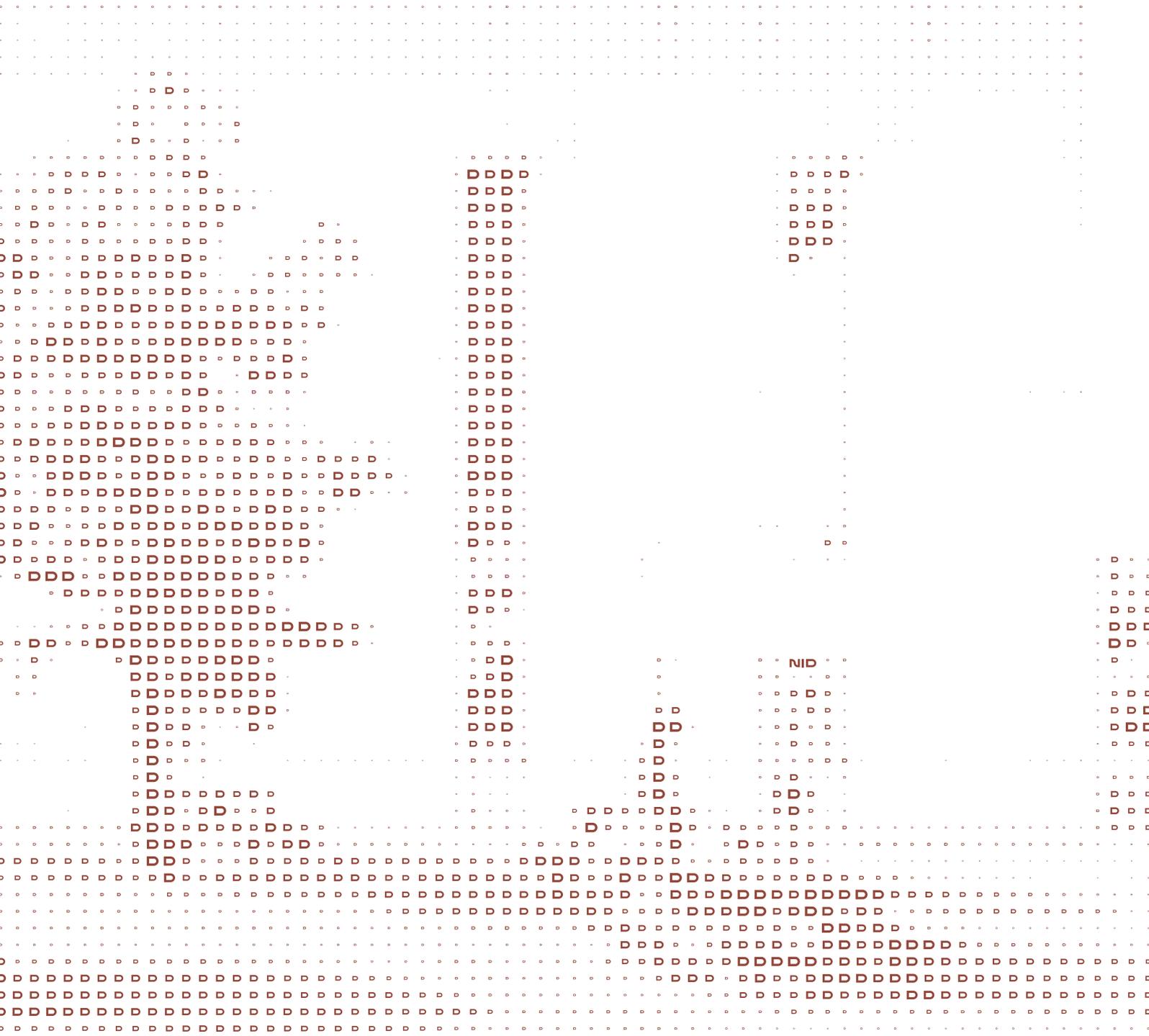


長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design
Guide to Liberal Learning

履修ガイド



長岡造形大学

Nagaoka Institute of Design

履修ガイド 2020 GUIDE TO LIBERAL LEARNING

授業計画、成績評価基準などの各授業科目の概要（シラバス）は、パレット、大学ホームページで確認することができます。

- パレット ログイン → 授業関連 → シラバス → 科目を検索して表示させる
- 大学ホームページ 学部 → カリキュラム → 科目群から科目を選択して表示させる

1

はじめに

1-1	学長メッセージ	4
1-2	建学の理念	5
1-3	『米百俵』と長岡造形大学	5
1-4	シンボルマークとロゴタイプ	6
1-5	長岡造形大学の歩み	6
1-6	キャンパスが教材	7

2

学位授与方針・教育課程の編成方針

2-1	学位授与方針（ディプロマポリシー）	9
2-2	教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）	9
2-3	履修コース	10

3

2014～2017年度入学者カリキュラムの教育課程

3-1	カリキュラム体系	14
3-2	授業科目・単位数・担当教員	22
3-3	進級要件・卒業要件	30

4

2018年度以降入学者カリキュラムの教育課程

4-1	カリキュラム体系	34
4-2	授業科目・単位数・担当教員	42
4-3	進級要件・卒業要件	51

5

授業について

5-1	授業期間および授業時間	53
5-2	単位の修得	53
5-3	休講・補講・集中講義	54
5-4	出席の基準	54
5-5	出席のとり方	55
5-6	出席状況調査	55
5-7	欠席	56

6

履修の手引き

6-1	履修登録	58
6-2	履修登録の時期	58
6-3	履修登録の流れ	58
6-4	履修登録時の注意事項	59
6-5	パレットによる履修登録の方法	62
6-6	再履修と継続履修	67
6-7	在学年限	67
6-8	卒業見込証明書	67
6-9	学芸員課程の履修	68
6-10	教職課程の履修	70
6-11	地域・社会連携系科目（学部共通第4区分）の履修	72

7

試験と成績評価について

7-1	試験の種類	74
7-2	成績評価	76
7-3	成績通知表の見方	77
7-4	成績通知	77
7-5	成績評価に対する異議申立て	77
7-6	留年	78
7-7	履修指導	78
7-8	授業評価アンケート	78

8

各種制度について

8-1	転学科制度	79
8-2	既修得単位認定	79
8-3	資格取得等による単位の認定	80
8-4	本学以外での学修	80
8-5	学修度チェック	82
8-6	学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修	83

9

資格について	84
--------	----

10

各種同意事項について	90
------------	----

1 はじめに

1-1 学長メッセージ

学修を通して気づきへの挑戦を

今から27年前の平成6年に、長岡造形大学はデザインの専門大学として、地域の大きな期待のもと開学しました。時を重ね、令和に移り変わり、長岡造形大学は成熟と挑戦の時代を迎えています。

開学以来、「造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」こと、この1点を目標（建学の理念）に掲げてみなさんと歩んできました。

在学生のみなさんは4年間の大きな目標として胸に刻み、時に迷い、悩み、先を見失いそうになったときには、一呼吸を置いてぜひこの一文を思い出してみてください。

本学の履修ガイド、科目のシラバスにはこの目標を実現するための道標が網羅されています。4年間のカリキュラムを俯瞰し履修計画を立て、卒業要件に必要な単位を組み立てることがまずは重要なことです。

さらに、学位授与の方針（ディプロマポリシー）には、社会の要請を的確に認識し、様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための3つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を教育目標として掲げています。3つの力をバランスよく得るために、シラバスを正しく読み解き、広い視野で履修計画を立て、より大きな学びにつなげてください。

また、近年、デザイン領域はボーダレス化が進み、それぞれの分野のポテンシャルを活かしながら、様々な分野・領域との接点から新たな結合が生まれ、未知の可能性につながっています。例えば、AIやIoTに代表される進化するテクノロジーを理解し、デザインを用いて料理することで、どのような明るい社会や未来をもたらすのか。ワクワクするのではないのでしょうか。

そのためには、広くアンテナを張り情報を得たり、人の気持ちに寄り添ったり、多様なコミュニケーションを行うことなどから、可能性について「気づく」ことが必要です。

長岡造形大学での学修を通して、多くの気づきを見つけ、ともに挑戦していきましょう。皆さんにとってこの1年間が実りある修学の時となりますようお願いしています。



長岡造形大学 学長 馬場 省吾

■役職者紹介

学部長 土田 知也
研究科長 平山 育男
プロダクトデザイン学科長 池永 隆
視覚デザイン学科長 真壁 友
美術・工芸学科長 岡谷 敦魚
建築・環境デザイン学科長 小川 総一郎
地域協創センター長 渡辺 誠介
地域協創センター副センター長 中村 和宏
文化振興センター長 御法川 哲郎

キャリアデザインセンター長 菅野 靖
附属図書館長 渡辺 誠介
研究推進部長 渡辺 誠介
研究推進副部長 福本 塁
教務部長 長瀬 公彦
学生支援部長 菅野 靖
入試部長 金澤 孝和
NaDeC構想推進プロジェクトチームリーダー 渡辺 誠介
広報プロジェクトチームリーダー 徳久 達彦

1-2 建学の理念

人々の価値観の変化やめまぐるしく動きつづける社会構造の中で、デザインのあり方は大きく変化し、その領域も大きく広がってきています。エレクトロニクス、情報通信技術、土木、建築、医療、福祉といったさまざまな分野でのめざましい研究成果は、デザインという創造行為を通じて初めて形を獲得し、人々の生活の中に還元されていきます。

新しい世紀の扉が開かれた今、20世紀の蓄積を糧としながら、新しい視点からデザインを総合的に探究していく人材の養成が今日ほど求められている時代はありません。

長岡造形大学は、「**造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する**」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場としてその役割を担うことを期するものです。

1-3 『米百俵』と長岡造形大学

山本有三の作品に『米百俵』という戯曲があります。昭和18年に出版され、大きな反響を呼びましたが、軍部から反戦戯曲だとして弾圧を受け、絶版・自主回収となった作品です。

……『米百俵』の主人公小林虎三郎は、1828年に長岡藩士の子として生まれた。数え23歳のときに江戸に遊学。佐久間象山について学び、吉田寅次郎（松陰）とともに「象門の2虎」と並び称された。

長岡藩が戊辰戦争（1868年）によって焦土と化すと、虎三郎は藩の大参事に迎えられた。当時、藩の禄高は3分の1に減らされ、藩士たちは極貧の生活を強いられていた。そんな折、分家の三根山藩から見舞いの米百俵が送られてきた。藩士たちは、これで一息つけると喜んだ。ところが、虎三郎は、これで学校を建てることにした。そして「米をよこせ」といきり立つ藩士たちに向かってこう言った。「この米を1日か2日で食いつぶして何が残る。その日暮らしでは、長岡は立ち直れないぞ。国が興るのも、まちが栄えるのもことごとく人にある。食えないからこそ学校を建て、人物を養成するのだ。明日の長岡を考えろ、明日の日本を考えろ」

こうして明治3年、国漢学校が設立された。後年、ここからは解剖学の祖・小金井良精、東洋大学創立者・井上円了、東大総長・小野塚喜平次、日本洋画界の先駆者・小山正太郎、詩人・堀口大学、山本五十六元帥、司法・内務・厚生各大臣を務めた小原直などといった新生日本を背負う幾多の人材を輩出した……

長岡造形大学は、こうした『米百俵』の精神的風土をもつ長岡市が、新潟県の支援を得ながら公設民営方式（自治体が設置費用を負担し、開学後は学校法人による私立大学として運営していく方式）によって設立したもので、また、平成26(2014)年4月には公立大学法人化し、まさに平成の『米百俵』として新たな教育の理想を掲げ、文化や産業の発展を支え、我が国の教育研究の進展に寄与することを目指した大学です。

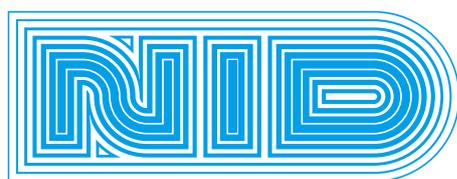
さらに、この米百俵の精神は、長岡市内の教育機関に生きづき、幼・小・中・高・大において伸び伸びと文武に取り組む環境が形成されています。平成30(2018)年にはNaDeC構想*を掲げ、これからの教育研究をリードしていく取り組みが始まっています。

*NaDeC構想：長岡市、長岡商工会議所、市内高等教育機関が連携し、人材育成、産業振興を目指す取り組み。

1-4 シンボルマークとロゴタイプ

シンボルマークは、Nagaoka Institute of Design のイニシャル〈N I D〉をデザインしています。

〈N〉の中央のカーブとカラーの〈青色〉は、長岡を育んだ信濃川を象徴し、平行線、平行曲線の模様は、長岡が誇る文化財〈火焰土器〉の模様を現代的に表現しています。そうしてできた形は、現代の〈文化カプセル〉であり、文化情報が長岡造形大学〈N I D〉に集まり、〈N I D〉の成果が世界に輪をひろげるようイメージしています。



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

1-5 長岡造形大学の歩み

長岡造形大学は、「造形を通して真の人的豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」ことを建学の理念とし、新しい時代におけるデザインの実践的教育研究の場として平成6年に開学しました。デザインを美術的な面からだけでなく、工学・情報・経済・環境などのさまざまな側面から総合的にとらえることで、デザインの新しい可能性を探求しています。

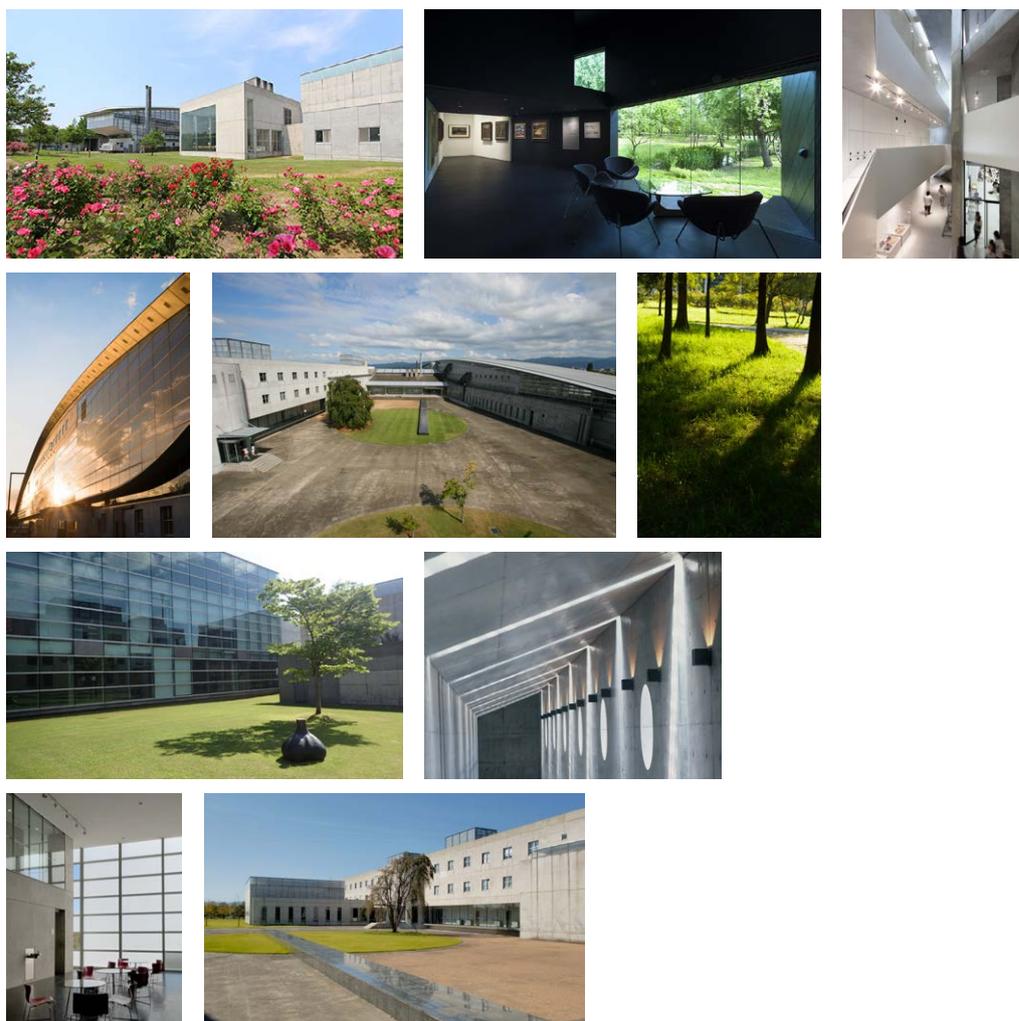
平成21年以降は、「プロダクトデザイン」「視覚デザイン」「美術・工芸」「建築・環境デザイン」の4つの視点からデザイン・アートを学び、社会のため、地球のため、そして未来のために新しい提案ができる人材を育成します。

1994年4月	長岡造形大学開学（産業デザイン学科／環境デザイン学科）
1998年4月	長岡造形大学大学院修士課程開設
2001年4月	長岡造形大学大学院博士（後期）課程開設
2005年4月	造形学部に視覚デザイン学科を開設、3学科体制に （産業デザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科）
2006年4月	産業デザイン学科をものデザイン学科に改称 （ものデザイン学科／視覚デザイン学科／環境デザイン学科）
2007年4月	環境デザイン学科を建築・環境デザイン学科に改称 （ものデザイン学科／視覚デザイン学科／建築・環境デザイン学科）

- 2009年 4月 造形学部にて美術・工芸学科を開設、ものデザイン学科を改組し、プロダクトデザイン学科を設置、4学科体制に
(プロダクトデザイン学科/視覚デザイン学科/美術・工芸学科/建築・環境デザイン学科)
- 2014年 4月 開学以来大学を運営してきた学校法人長岡造形大学を公立大学法人化。公立大学として、新たなスタートを切りました。
- 2018年 4月 大学院修士課程・博士(後期)課程 未来創造型実践カリキュラムスタート
5月 市内4大学1高専の連携拠点「NaDeC BASE」開設

1-6 キャンパスが教材

長岡造形大学は、学生生活をおくる環境のすべてをデザインの教材としてとらえ、デザインを学ぶ上で理想的な環境を追求しています。建物の構造、学内のインテリアや照明、庭の風景等、キャンパスそのものがデザインにあふれています。長岡造形大学のキャンパスで、デザインのヒントをたくさん見つけてください。



2 学位授与方針・教育課程の編成方針

2-1 学位授与方針（ディプロマポリシー）

社会の要請を的確に認識し様々な課題に対して創造的な解決策を提示するための3つの力「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を養うことを教育の目標とします。

これらの能力の獲得を目的とする授業科目を履修し、卒業要件単位を修得した者に学士課程学位を授与します。

【教育目標に掲げる3つの能力】

▶社会人基礎力

自然・人、社会・人との関わりに関心を持ち、主体的、自律的、継続的な学修ができ、論理的、多面的に物事を考え抜き、状況を判断し、責任感と協調性をもって行動できる。

▶構想力

人と造形との関係を追及する専門的・横断的な知識を身につけ、「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証」を行うことができる。

▶造形力

人・もの・自然に対する豊かな感性を備えて、「思い」を形にする伝達技術としての表現ができる。

2-2 教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）

▶地域・社会や企業と連携した実践的なデザインプロジェクトにより、社会人基礎力を養成する「地域・社会連携系」科目を拡充します。

▶構想力を重視したデザインプロセスを総合的に学ぶ演習・実習科目を強化します。

▶複合的な造形力修得のための横断的科目の充実を図ります。

教育課程の構成

教育課程は、次のように区分された科目で構成されています。

教養科目	教養 言語系 キャリアデザイン教育 ソーシャル・スキルズ（言語系、キャリアデザイン教育を含む）
専門教育科目	学部共通専門教育科目 学科共通専門教育科目 コース別専門教育科目 ゼミ科目 卒業研究

2-3 履修コース

● プロダクトデザイン学科

プロダクトデザインにはカタチや機能だけではなく、そのモノのあり方や人や社会との関わり、他のモノとの関係性まで考え提案するために、細部へのこだわりに加え、幅広い視野も重要になります。カリキュラムでは、実習・演習中心の授業でマンツーマン指導を通じて「問題の発見、原因の究明、解決への構想、試行及び検証する力」および、アイデアを「カタチにするスキル」を身につけ、プロのデザイナーとしてスタートできる能力を培っていきます。

— プロダクトデザインコース

家電製品等の電氣的なメカニズムを内包したプロダクトデザイン、自動車、バイク等の乗り物のデザイン、生活雑貨、照明等インテリア用品のデザイン、産業機器などの生産財のデザインなど工業製品のデザインの領域を幅広く学びます。

立体のデザインに加えて、ユーザーと機器との関係をデザインするインターフェースデザインや、各種工業製品の素材・加工技術とカタチとの関係も学びます。

— テキスタイル・ファッションデザインコース

衣服をはじめとしてバック、帽子などのプロダクトは、道具であると同時に装身具であり、人が身に付けることで完結し、人をより魅力的に見せることが求められます。またカーテン、絨毯、テーブルマットなどのインテリアファブリックは生活を快適にする役割があります。

テキスタイルを切り口とし、社会のニーズに適応したファッションやインテリアに関わる布のデザインおよび制作までを学びます。

● 視覚デザイン学科

カリキュラムは、[理解する・身に付ける＋考える・展開する＋解く・磨く]をテーマに組み立てられています。

軸となるコンピュータ教育は、視覚デザインのツールとして欠かせないものであり、コンピュータの知識と技術を学ぶ授業を1年次から3年次に設け、各専門分野につなげて活かせるように発展させていきます。

また、2年次から始まる各専門分野の基礎的な授業は、学生の興味をその後の進路の決定へと導く内容となっています。さらに3年次の内容は、卒業後に社会で求められる仕事を想定した授業内容となっています。

視覚デザインにおいて、各分野に偏らず「グラフィックデザイン＋専門分野」を強みに応用力のある人材を育てていきます。

— 伝達デザインコース

広告の企画・制作を中心に授業を展開します。視覚的な表現技術を学ぶだけでなく、ものごとの本質を見極め問題を解決する能力、多様なメディアに対応したビジュアルの表現をコントロールする能力を身につけていきます。

[専門領域] 広告、グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、Webを始めとするインタラクティブデザイン、インフォメーションデザイン、パッケージデザイン、商品開発、ブランディングデザイン、ビジュアルアイデンティティ、コマーシャル、広告写真

— 表現デザインコース

視覚デザインの領域における表現技法と技術を磨き、個々の持つ豊かな感性を活かし

表現することを学びます。また、表現力に頼り過ぎず、グラフィックデザインの知識や技術と感性を融合させ、個々の感性を社会に結びつけて展開する術を学びます。

[専門領域] 写真、イラストレーション、アニメーション、モーショングラフィックス、映像、キャラクターデザイン、ゲームデザイン

● 美術・工芸学科

アートとクラフトの新たな表現の可能性を、絵画、彫刻、工芸の各専門分野の基礎カリキュラムを通して横断的に学びます。それにより、既存の領域間の壁を取り払い、素材・技法・表現手法の理解と融合を図り、柔軟な発想と独創的な創作や研究を目的とした造形教育を行います。

また、グローバルな視野によって専門領域を探求すると共に、デザインの視点による多彩な社会環境での、人と「もの」との関係性や計画・立案から造形表現までを学びます。これにより幅広い知識や能力と社会への発信力を兼ね備えます。

— 美術表現コース

平面における描画表現・版表現、立体造形における形・量塊・構造・空間などの基本要素の理解を、実践的制作を通して学修します。素材の理解と技術、構成力の向上によって、芸術的素養が求められるデザインの現場へ応用可能な豊かな感性を育てます。領域にとらわれない横断的な研究を通じ、柔軟な発想力による多彩な表現力・技術力を習得します。

現代におけるアートとデザインの関わりを考察し、社会における美術の役割をディスカッションすることで、論理的思考を高め、コミュニケーション能力の向上を促します。また、地域への実践的な発表活動を行い、能動的に社会に関わる能力を養います。

— クラフトデザインコース

金属素材やガラス素材との対話により、その性質や表現方法を研究しながら、社会での様々な専門分野で活躍するための応用力を身に付けます。また、きめ細やかなマンツーマン指導によって学生一人一人が目指す表現を具現化し、その確かな技法と各自の感性を融合することで、創造性や表現力、造形力を養います。

伝統という永い時間と精査によって培われてきた工芸や、現代の暮らしの中で育まれてきたクラフトデザインを基盤とし、「ものづくり」の視点から使う人への視野を持つことでコミュニケーション能力を養い、既存の造形表現のみならず、社会との位置づけを考え、人からひとへの温もりや感動を伝える人材教育を実践します。

● 建築・環境デザイン学科

今は生物多様性の時代。メトロポリスより、自然豊かな環境の方が先を走ります。よって、コンクリートやアスファルトに囲まれた空間ではなく、人と生物や植物が生きた空間と環境のデザインに重きを置きます。領域は幅広く、建築・構造・ランドスケープ・インテリア、生活空間からコミュニティ空間、文化財の保存、まちづくり・都市計画まで多彩です。これからの世界は、人と社会からの視点と、自然や環境からの視点の両視点からのデザインが求められています。確かな技術力を身につけ、学生ひとりひとりの多彩な考え方や個性をとらえて伸ばし、次の時代が求める豊かでしなやかなハートも持ったデザイナーを育てます。

所定の単位をとれば、一級および二級建築士受験資格を取得することのできるカリキュラムとなっています（新潟県内では長岡造形大学、新潟大学、新潟工科大学の3大学のみです）。実際、本学の卒業生に多くの一級建築士が誕生し、活躍しています。

建築・インテリアコース

- ・建築をランドスケープや街まで連続する中にとらえます。エキサイティングな演習に取り組むことにより、建築&環境の美しいデザイン、斬新なデザイン、伝統的なデザイン、そして構造と設備のエンジニアリングを修得します。
- ・ハードな都市環境もさることながらソフトな自然や里山や地域環境を重視し、山・川・海における、人々や生物や植物が生き生きと活動する空間を設計する感性と技術を身に付けます。
- ・建築再生／リノベーション／リフォームを学び、すでにある空間資源を見事に生き返らせるデザイン力を身につけ、また、情報をわかりやすく効果的に伝えることのできるディスプレイデザインを学びます。

環境計画・保存コース

- ・成熟した社会において、街並みや歴史的な建造物など、既存の資源に着目し、これらを活用・保全したり新たな仕掛けを施すことで、暮らしやすさを実現できるような創造力・行動力を身につけます。
- ・具体的な空間のデザインだけではなく、都市環境が健やかに持続するための制度のデザインや仕組みのデザインを考え出す力をつけます。
- ・学芸員資格の取得を目指します（特に保存系）。

履修コース分け

履修コース分けの時期は次のとおりです。

履修コースの申請時期 第2学年／12月～1月

配属時期 第3学年／4月

*履修コースの申請は、パレットにて学科ごとに行います。

*履修コースの決定は、学生本人の志望を尊重しますが、施設・設備、教員配置等の制約もあるため、志望者数に大きな偏りが生じる場合には、履修実績等を加味して決定します。

3 2014～2017年度入学者カリキュラムの教育課程

3-1 カリキュラム体系 (2014~2017年度入学者)

プロダクトデザイン学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
②保健体育講義	②スポーツ	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学 (日本国憲法) ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論	②哲学				
言語系 ②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II	②英語中級 I ②英語中上級 I
①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ I	①英語オーラルコミュニケーションIX ②現代社会論 ②社会起業 ①基礎ゼミ II	①英語オーラルコミュニケーションX ①キャリア計画実習 I	①英語オーラルコミュニケーションXI ①キャリア計画実習 II	①英語オーラルコミュニケーションXII ①キャリア計画実習 III	①英語オーラルコミュニケーションXIII ①キャリア計画実習 IV	①英語オーラルコミュニケーションXIV ①キャリア計画実習 V	①英語オーラルコミュニケーションXV ①キャリア計画実習 VI
②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素材材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論	②色彩学	①学外見学実習	①学外見学実習	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ②基礎造形実習 II (複合造形) ②デザイン概論	②色彩学	①学外見学実習	①学外見学実習	②基礎造形実習 III (描写) ②基礎造形実習 III (造形) ②基礎造形実習 III (素材材) ②基礎造形実習 III (デザイン) ②基礎造形実習 III (複合造形) ②デザイン概論
クロス実習		①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学			
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②美術解剖学 ②描写実習	①美術・工芸特別講義				
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論				
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン	実践的なプロジェクトで 「社会人基礎力」「構想力」 「造形力」を身につける	
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
プロダクト デザイン学科 科目	②プロダクトコンピュータ基礎演習	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ②基礎造形実習 II (複合造形) ②プロダクトコンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習 I	④プロダクトデザイン基礎実習 I ②テキスタイル材料学	④プロダクトデザイン基礎実習 II (A) ④プロダクトデザイン基礎実習 II (B) ②生産技術論				
②プロダクトコンピュータ基礎演習	②プロダクトコンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習 I	②プロダクトスケッチ実習 II ②プロダクト3DCG演習 I	②プロダクトCAD演習 ②プロダクト3DCG演習 II ②ファッション画実習 ②テキスタイル・ファッションCAD演習	④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II	③卒業研究 I	③卒業研究 II	創造力を 発揮する
プロダクトデザインコース テキスタイル・ファッションコース ゼミ科目								
卒業研究								

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

コース配属

研究室配属

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

発想力を鍛える

技術力を身につける

発想力を鍛える

創造力を発揮する

視覚デザイン学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
②保健体育講義 ②スポーツ ②社会心理学 ②日本文化論 ②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論 ②哲学	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ I	①英語オーラルコミュニケーションIX ①英語オーラルコミュニケーションX ②現代社会論 ②社会起業 ①基礎ゼミ II	①キャリア計画実習 I ①キャリア計画実習 II	③卒業研究 I ③卒業研究 II
言語系									
ソーシャル・スキルズ									
キャリアデザイン教育									
②基礎造形実習 I（描写） ②基礎造形実習 I（造形） ②基礎造形実習 I（素材材） ②基礎造形実習 I（デザイン） ②基礎造形実習 I（複合造形） ②デザイン概論 ②色彩学	①学外見学実習 ①学外見学実習	①学外見学実習 ①学外見学実習	①プロダクト A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B	②日本美術史 ②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②ポートフォリオ ④インフォメーションデザイン ④Web・エディトリアルデザイン ④コマース演習
専門教育科目 [学部共通]									
クロス実習									
第1区分 美術・工芸系									
第2区分 プロダクト・視覚系									
第3区分 建築・環境系									
第4区分 地域・社会連携系									
②基礎造形実習 II（描写） ②基礎造形実習 II（造形） ②基礎造形実習 II（素材材） ②基礎造形実習 II（デザイン） ②視覚コンピュータ基礎演習 ④視覚コンピュータ II ④写真映像基礎 ④描写表現基礎 ④タイポグラフィ基礎 ④WEB デザイン ④DTP ④タイポグラフィ ④写真映像 ④描写表現 ④視覚デザイン基礎演習 I ④視覚デザイン基礎演習 II	④写真映像基礎 ④描写表現基礎 ④タイポグラフィ基礎 ④WEB デザイン ④DTP ④タイポグラフィ ④写真映像 ④描写表現 ④視覚デザイン基礎演習 I ④視覚デザイン基礎演習 II								
視覚デザイン学科科目									
伝達デザインコース									
表現デザインコース									
ゼミ科目									
卒業研究									

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

技術力を身につける

考える力を身につける

創造力を発揮する

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

美術・工芸学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
②保健体育講義	②スポーツ	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論	②哲学				
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II	社会人基礎力の養成			
ソーシャル・スキルズ	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII	①英語オーラルコミュニケーションIX	①英語オーラルコミュニケーションX				
キャリアデザイン教育	②論理学	②情報リテラシー ②統計学	②現代社会論 ②社会起業	①キャリア計画実習 I	①キャリア計画実習 II	NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする		
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素形材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論	②色彩学	①学外見学実習	①学外見学実習				
クロス実習			①プロダクト A ①視覚 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①建築・環境 B				専門的・横断的な知識を身につける
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②美術解剖学 ②描写実習	①美術・工芸特別講義				
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学		
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン 実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける		
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
美術・工芸学科科目	②美術・工芸コンピュータ基礎演習	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素形材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ②美術・工芸コンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習 I	①美術・工芸基礎演習 I (A) ①美術・工芸基礎演習 I (B) ①美術・工芸基礎演習 I (C) ②表示図法 ②プロダクトスケッチ実習 II ②プロダクト3DCG 演習 I	①美術・工芸基礎実習 II ②美術・工芸材料学 ②古美術研究 ②生産技術論 ②プロダクト CAD 演習 ②プロダクト3DCG 演習 II	②美術・工芸・デザイン分析 ②美術工芸史	確かな造形力を身につける		
美術表現コース クラフトデザインコース					④美術表現演習 I ④クラフトデザイン演習 I ②ゼミ I	④美術表現演習 II ④クラフトデザイン演習 II ②ゼミ II		創造力を発揮する
卒業研究							③卒業研究 I	③卒業研究 II
教職に関する科目			②教職入門 ②教育心理学 ②生徒・進路指導	②教育原理 ②道徳指導法 ②教育課程の編成と実際 ②特別活動指導法	③美術科指導法 ②教育に関する社会的・制度的・経営的研究 ②教育相談	④工芸指導法 ②教育方法・技術	①事前・事後指導 ②教育実習 I ②教育実習 II	②教職実践演習 (中・高)

●は必修科目

■は選択必修科目

○は選択科目

科目名が赤色：進級要件にかかわる科目

数字は単位数

建築・環境デザイン学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
②保健体育講義	②スポーツ	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論	②哲学				
言語系 ②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II					
ソーシャル・スキルズ ①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ I	①英語オーラルコミュニケーションIX ②現代社会論 ②社会起業 ①基礎ゼミ II	①英語オーラルコミュニケーションX ①キャリア計画実習 I					
キャリアデザイン教育			①キャリア計画実習 II					
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素材材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論	①学外見学実習	①学外見学実習					
クロス実習	②色彩学	①プロダクト A ①視覚 A ①美術・工芸 A	①プロダクト B ①視覚 B ①美術・工芸 B					
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②美術解剖学 ②描写実習	①美術・工芸特別講義				
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学		
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノープラン 実践的なプロジェクトで 「社会人基礎力」「構想力」 「造形力」を身につける		
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
建築・環境 デザイン学科 科目	②基礎数学 ②製図実習 ②建築・環境コンピュータ基礎演習	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ④建築・環境デザイン演習 I ②建築構法 ②建築・環境 CAD 実習	④建築・環境デザイン演習 II ②建築計画 I ②建築材料実験 ②建築・環境 CG 実習 I ②都市計画 ②住宅リフォーム論 ②測量学実習	④建築・環境デザイン演習 III ②構造力学 I ②建築環境工学 ②建築構造 ②建築材料 ②建築計画 II ②緑地環境設計 ②建築・環境 CG 実習 II	②建築設計 ②構造力学 II ②建築設備 ②エコロジカルプランニング ②建築法規	②建築施工 ②コミュニティデザイン		
建築・インテリアコース 環境計画・保存コース ゼミ科目					④建築・インテリア演習 I ④環境計画・保存演習 I ②ゼミ I	④建築・インテリア演習 II ④環境計画・保存演習 II ②ゼミ II		
卒業研究						③卒業研究 I	③卒業研究 II	

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

基礎力を身につける

発想力を高める

想像力と表現力を高める

創造力を発揮する

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

3-2 授業科目・単位数・担当教員(2014～2017年度入学者)

(1) 教養科目

区分	授業科目	単位数		履修開始可能学年・学期								担当教員	卒業資格 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養	スポーツ	○	2		■								* 篠田	選択10～14単位 (学科により異なる)
	保健体育講義	○	2	■									* 篠田	
	社会心理学	○	2			■							◎天野(美)・*大野	
	日本文化論	○	2			■							◎*岡本・*黒川・*薩摩・*芹生	
	美術論	○	2				■						* 瀧本	
	環境と社会	○	2				■						* 水流	
	地域文化論	○	2				■						◎*田中(洋)・*田邊・*筑波	
	文化人類学	○	2				■						板垣	
	法学(日本国憲法)	○	2				■						* 星野	
	科学技術論	○	2				■						* 寺島	
哲学	○	2							■			菅原		
言語系	英語中級Ⅰ	○	2	■									菅原・*木伏	選択必修4単位 それ以上は、教養科目として卒業要件単位数に含める
	英語中級Ⅱ	○	2		■								菅原・*木伏	
	英語中上級Ⅰ	○	2	■									菅原	
	英語中上級Ⅱ	○	2		■								菅原	
	英語上級Ⅰ	○	2			■							菅原	
	英語上級Ⅱ	○	2				■						菅原	
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○	1	■									バンゴーサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	○	1		■								バンゴーサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅢ	○	1	■									バンゴーサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅣ	○	1		■								バンゴーサム	
ソーシャル・スキルズ	英語オーラルコミュニケーションⅤ	○	1	■									*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス	必修5単位
	英語オーラルコミュニケーションⅥ	○	1		■								*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス	
	英語オーラルコミュニケーションⅦ	○	1	■									*ドライアー・*レイサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅧ	○	1		■								*ドライアー・*レイサム	
	英語オーラルコミュニケーションⅨ	■	1			■								
	英語オーラルコミュニケーションⅩ	■	1				■							
	基礎ゼミⅠ【基礎ゼミ】	○	2		■								板垣・市川・◎金山・北・小松・竹田・徳久・福本・森本	
	基礎ゼミⅡ	○	1			■							専任教員(HR担当)	
	キャリア計画実習Ⅰ	○	1				■						◎菅野・専任教員・*椎名・*高橋・*横部	
	キャリア計画実習Ⅱ	○	1					■					◎菅野・専任教員・*椎名・*高橋・*横部	
論理学	○	2	■									* 市野		
統計学	○	2		■								福本		
情報リテラシー	○	2		■								* 横田		
現代社会論	○	2			■							* 広田		
社会起業	○	2			■							福本		
計		5	54											

注1 = 進級要件について 第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = #印の授業科目は2020年度に開講しない。

注5 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(2) 専門教育科目〔学部共通〕

区分	授業科目	単位数	履修開始可能学年・学期								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格最低単位数
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門教育科目 学部共通	基礎造形実習Ⅰ(描写)	○ 2		■							阿部・天野・池永・市川・遠藤・岡谷・小川・金澤・金山・川口・菅野・菊池・吉川・北・金・小林・齋藤・境野・佐藤・白鳥・菅原・鈴木・土田・津村・徳久・長瀬・中村・長谷川・ビュウラ・平山・福本・増田・真壁・松本・水川・御法川・森・山下・山田・山本・渡辺・*奥田・*柏田・*川上(教)・*北村・*ただ・*星・*森崎・*李	◇	必修15単位
	基礎造形実習Ⅰ(造形)	○ 2		■								◇	
	基礎造形実習Ⅰ(素形材)	○ 2		■								◇	
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	○ 2		■								◇	
	基礎造形実習Ⅰ(複合造形)	○ 2		■								◇	
	デザイン概論	○ 2		■							馬場		
	色彩学	○ 2			■						*三井		
	学外見学実習	1				■					専任教員		
計	15												
クロス実習	プロダクトA	○ 1			■						金澤・菊池・○齋藤・境野・土田・増田		第1区分: 美術・工芸系 選択2科目以上
	プロダクトB	# 1				■							
	視覚A	○ 1				■					真壁		
	視覚B	# 1					■						
	美・工A	○ 1				■					岡谷		
	美・工B	○ 1					■				長谷川		
	建築・環境A	○ 1					■				A-1 ○小川・菅原・福本・渡辺 A-2 川口・○森		
	建築・環境B	○ 1						■			○津村・平山		
第1区分	日本美術史	○ 2	■								*大倉		第2区分: プロダクト、 視覚系 選択4科目以上
	西洋美術史	○ 2		■							*瀧本		
	形態デザイン論	○ 2			■						*三井		
	美術・工芸概論	○ 2				■					遠藤・○岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場		
	現代芸術論	○ 2					■				*大倉		
	描写実習【描写表現】	○ 2						■			長瀬・○御法川・*伊藤(彰)・*羽川		
	美術解剖学	○ 2						■			*伊藤(恵)		
	美術・工芸特別講義	○ 1							■		○岡谷・*大倉・*小曾川・*小林(正)・*長井		
第2区分	プロダクトデザイン概論	○ 2		■							○池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田		第3区分: 建築・環境系 選択2科目以上
	視覚デザイン概論	○ 2		■							阿部・天野・吉川・○金・徳久・長瀬・ビュウラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本		
	人間工学	○ 2			■						*三村		
	メディア概論	○ 2				■					○真壁・*大野・*澤・*林(洋)・*松本(祐)・*山田(興)		
	プロダクトデザイン特別講義	○ 1				■					○池永・*上野(和)・*非常勤・*玉井・*松本(有)		
	視覚デザイン特別講義	○ 1					■				○真壁・*太田・*五島・*林・*山本(信)		
	商品記号論	○ 2					■				*佐古		
	ユーザインタフェースデザイン論	○ 2						■			*尾田		
	マーケティング論	○ 2							■		*上原		
	広告論	○ 2							■		*嶋田		
	デザイン感性工学	○ 2								■	境野		
	サインデザイン論	○ 2								■	吉川・○金・山本・*鎌田		
	パッケージデザイン演習	○ 4								■	○山本・*大塚(麻)		
	デザインマネジメント	○ 2								■	池永		
知的財産権論	○ 2								■	*本多			
機構学	○ 2								■	*磯部			
第3区分	建築・環境デザイン概論	○ 2			■						○小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺		第4区分: 地域・社会連携系 選択1科目以上
	都市論	○ 2				■					渡辺		
	インテリア	○ 2					■				川口・○森		
	空間安全論	○ 2						■			○福本・*稲垣		
	文化財学概論	○ 2							■		○津村・*大塚・*武内・*中山・*西田・*前嶋		
	緑地環境計画	○ 2							■		小川		
	都市デザイン	○ 2							■		白鳥		
	居住論	○ 2								■	山下		
	建築史	○ 2								■	津村・○平山		
	建築・環境デザイン特別講義	○ 1								■	○小川・*伊藤(拓)・*木村(他)・*齋藤(公)・*森(民)		
	博物館概論	○ 2								■	津村		
スノープラン	○ 2								■	平山・境野・長谷川・ビュウラ・○山下・*上村・*本吉			
第4区分	地域協創演習A	○ 2				■	■				専任教員		第4区分: 地域・社会連携系 選択1科目以上
	地域協創演習B	○ 2					■	■			専任教員		
	地域協創演習C	○ 2						■	■		専任教員		
	地域協創演習D	○ 2							■	■	専任教員		
	インターンシップA	○ 1								■	専任教員		
	インターンシップB	○ 1								■	専任教員		
	ボランティア実習A	○ 1								■	専任教員		
	ボランティア実習B	○ 1								■	専任教員		
計	90												

第1～4区分及びクロス実習から合計16～35単位以上(所属学科により異なる)

注1 = 進級要件について 第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ○印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。◇が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = #印の授業科目は2020年度に開講しない。

注5 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(3) 専門教育科目 [プロダクトデザイン学科]

区分	授業科目	単位数	履修開始可能学年・学期								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格最低単位数	
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [プロダクトデザイン 学科共通]	プロダクトコンピュータ基礎演習	○ 2		■							金澤		必修20単位	
	基礎造形実習Ⅱ<描写>	○ 2			■							◇		
	基礎造形実習Ⅱ<造形>	○ 2			■						池永・金澤・金山・菊池・ ◎齋藤・境野・鈴木・土田・ 増田・*近藤・*若子	◇		
	基礎造形実習Ⅱ<素形材>	○ 2			■							◇		
	基礎造形実習Ⅱ<デザイン>	○ 2			■							◇		
	プロダクトコンピュータ演習	○ 2			■						金澤			
	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ	○ 4				■					池永・◎金澤・金山・菊池・齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・*近藤	△		
	テキスタイル材料学[プロダクト材料学]	2				■					◎菊池・*齋藤(博)			
	生産技術論	2					■				◎境野・長谷川・*齋藤(博)			
	計	20												
	選択必修	プロダクトスケッチ実習Ⅰ	○ 2			■						池永・◎齋藤		選択8単位以上
		プロダクトスケッチ実習Ⅱ	○ 2				■					◎齋藤・増田		
		プロダクト3DCG演習Ⅰ	○ 2				■					土田		
		プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A)	○ 4					■				池永・金澤・◎金山・齋藤・ 境野・土田・増田	▲	選択必修4単位 それ以上は自由選択 科目として卒業要件 には含まない
		プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B)	○ 4					■				菊池・◎鈴木・*安永	▲	
プロダクトCAD演習		○ 2					■				金山・◎土田			
プロダクト3DCG演習Ⅱ		○ 2					■				土田			
ファッション画実習		○ 2					■				*金石			
テキスタイル・ファッションCAD演習		○ 2					■				◎鈴木・*安永・*山本(正)			
計		22												
専門教育科目 コース別	デザインシゴト プロダクト	○ 4					■				池永・金澤・金山・齋藤・ 境野・◎土田・増田	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通し て8単位	
	デザインシゴト プロダクト	○ 4						■			池永・金澤・金山・齋藤・◎境野・土田・増田	◆		
	デザインシゴト テキスタイル	○ 4						■			菊池・◎鈴木・*金石	◆		
	デザインシゴト テキスタイル	○ 4							■		菊池・◎鈴木・*金石	◆		
	計	16												
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2						■			◎池永・金澤・金山・菊池・ 齋藤・境野・鈴木・土田・増田		必修4単位	
	ゼミⅡ	2							■		◎池永・金澤・金山・菊池・ 齋藤・境野・鈴木・土田・増田			
	計	4												
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3							■	■	◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・*金石		必修6単位	
	卒業研究Ⅱ	3							■	■	◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・ 境野・鈴木・土田・増田・*金石			
	計	6												

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件:△印の科目及び◆印の科目のうち1科目、計2科目の8単位をすべて修得すること

第4学年進級要件:所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(4) 専門教育科目【視覚デザイン学科】

区分	授業科目	単位数	履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格最低単位数			
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年							
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
専門教育科目 【視覚デザイン学科共通】	視覚コンピュータ基礎演習	○ 2		■								金・◎徳久・ビューラ・真壁		必修26単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈描写〉	○ 2			■							阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI	◇			
	基礎造形実習Ⅱ〈造形〉	○ 2			■								◇			
	基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉	○ 2			■								◇			
	基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉	○ 2			■								◇			
	視覚コンピュータⅠ	○ 2			■							◎金・徳久・ビューラ・真壁				
	視覚デザイン基礎演習Ⅰ	○ 4				■						阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋・*三田村	▽			
	視覚コンピュータⅡ	○ 4				■						天野・徳久・◎真壁・*矢尾板				
	視覚デザイン基礎演習Ⅱ	○ 4					■					阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*迫・*さとう(り)・*古屋	▽			
	ポートフォリオ	○ 2						■				天野・吉川・◎松本・山本				
計		26														
選択必修①	写真映像基礎【写真または映像Ⅰ】	4			■							阿部・ビューラ・◎松本・山田・*木場・*佐藤(誠)・*中村(雅)・*南雲・*長谷川(隆)・*原田	△	選択必修4単位		
	描写表現基礎【描写基礎】	4			■							長瀬・◎御法川・*内堀	△	それ以上は自由選択科目として卒業要件に含めない		
	タイポグラフィ基礎	# 4			■								△	それ以上は自由選択科目として卒業要件に含めない		
選択必修②	Webデザイン	○ 4			■							徳久・◎真壁・*沖・*中西・*矢尾板	▲	選択必修8単位		
	DTP	# 4			■								▲	それ以上は自由選択科目として卒業要件に含めない		
	タイポグラフィ	○ 4			■							◎天野・吉川・*阿部(宏)	▲	それ以上は自由選択科目として卒業要件に含めない		
	写真映像【映像Ⅱ】	4			■							◎ビューラ・*万年	▲	それ以上は自由選択科目として卒業要件に含めない		
	描写表現	○ 4			■							長瀬・◎御法川・*伊藤(彰)・*羽川	▲			
	インフォメーションデザイン	○ 4					■					吉川・◎真壁		選択8単位以上		
専門教育科目 コース別	伝達デザイン コース	伝達デザイン演習Ⅰ	○ 4				■					阿部・天野・吉川・金・真壁・水川・山田・◎山本・*相澤・*石川・*佐野・*嶋田・*角田・*溝口	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位		
		伝達デザイン演習Ⅱ	○ 4					■				阿部・天野・吉川・金・真壁・水川・山田・◎山本・*相澤・*石川	◆			
	表現デザイン コース	表現デザイン演習Ⅰ	○ 4				■					徳久・長瀬・ビューラ・◎松本・御法川・*伊藤(彰)・*大河原・*大西・*五島・*早園・*本間	◆			
		表現デザイン演習Ⅱ	○ 4					■				徳久・長瀬・ビューラ・◎松本・御法川・*大河原・*大塚(い)・*大西・*川上(典)・*木場・*シミズダニ・*白井(里)・*丸山(晶)・*山本(裕)	◆			
		計		16												
	専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2					■					◎阿部・天野・吉川・金・徳久・*宇波・*吹田			必修4単位
		ゼミⅡ	2						■				長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・御法川・山田・山本・*相澤			
計			4													
専門教育科目 【卒業研究】	卒業研究Ⅰ	3							■	■		阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・御法川・山田・山本		必修6単位		
	卒業研究Ⅱ	3							■	■		阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・御法川・山田・山本				
	計		6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件:▽印の2科目及び△印の科目のうち1科目、▲科目のうち2科目をすべて修得する

第4学年進級要件:所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = #印の授業科目は2020年度に開講しない。

注5 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(5) 専門教育科目 [美術・工芸学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期
専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	美術・工芸コンピュータ基礎演習	○	2	■									池永		必修32単位	
	基礎造形実習Ⅱ<描写>	○	2		■								遠藤・◎岡谷・菅野・小林・ 中村・長谷川・*奥田・ *柏田・*川上(敦)・ *川崎・*北村・*星・ *森崎・*李	◇		
	基礎造形実習Ⅱ<造形>	○	2		■											◇
	基礎造形実習Ⅱ<素材材>	○	2		■											◇
	基礎造形実習Ⅱ<デザイン>	○	2		■											◇
	美術・工芸コンピュータ演習	○	2		■								森本			
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(A)		4			■							遠藤・◎岡谷	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(B)		4			■							◎小林・長谷川	△		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(C)		4			■							菅野・◎中村・*相原・*手銭	△		
	美術・工芸基礎実習Ⅱ	○	4				■						石原・遠藤・◎岡谷・菅野・小林・ 中村・長谷川・*杉原・*下山・ *中安・*手銭・*藪内	△		
	美術・工芸材料学	○	2				■						菅野・菊池・中村・◎長谷川・*秋本・*井波・ *岩崎・*楠八重・*平賀・*森田			
	古美術研究	○	2				■						遠藤・岡谷・菅野・小林・中村・ ◎長谷川・*伊藤(哲)・*和田			
	計		32													
	プロダクトスケッチ実習Ⅰ	○	2		■								池永・◎齋藤		選択10単位以上	
	表示図法	○	2			■							* 齋藤(博)			
	プロダクトスケッチ実習Ⅱ	○	2			■							◎齋藤・増田			
	プロダクト3DCG演習Ⅰ	○	2			■							土田			
	生産技術論	○	2				■						◎境野・長谷川・*齋藤(博)			
	プロダクトCAD演習	○	2				■						金山・◎土田			
	プロダクト3DCG演習Ⅱ	○	2				■						土田			
美術・工芸・デザイン分析	○	2					■					◎中村・*浅賀・*扇原・*加藤・ *日野・*溝川				
美術工芸史	○	2					■					* 林(克)				
計		18														
専門教育科目 コース別	美術表現 コース	美術表現演習Ⅰ	○	4				■					遠藤・◎岡谷・小林・*塩谷・*嶋崎	◆	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位	
		美術表現演習Ⅱ	○	4					■				◎遠藤・岡谷・小林・*新村	◆		
	クラフト デザインコース	クラフトデザイン演習Ⅰ	○	4				■					菅野・◎中村・長谷川・*井上・*齋藤(直)	◆		
		クラフトデザイン演習Ⅱ	○	4					■				◎菅野・中村・長谷川・*石渡・*氣賀澤	◆		
計		16														
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	○	2					■				遠藤・◎岡谷・菅野・小林・ 中村・長谷川・*手銭	◆	必修4単位		
	ゼミⅡ	○	2						■			遠藤・◎岡谷・菅野・小林・ 中村・長谷川・*藪内	◆			
	計		4													
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ		3							■	■	遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川		必修6単位		
	卒業研究Ⅱ		3							■	■	遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川				
	計		6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件:△印の科目の単位をすべて修得する

第4学年進級要件:所属コースの◆印の科目及びゼミ科目の◆印の単位をすべて修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(6) 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科]

区分	授業科目	単位数	履修学年								担当教員	進級に関わる科目	卒業資格最低単位数	
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [建築・環境デザイン 学科共通]	建築・環境コンピュータ基礎演習	○ 2	■									* 武井	必修42単位	
	製図実習	○ 2	■									平山・◎森		
	基礎数学	○ 2	■									北・◎津村・福本		
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	○ 2		■										◇
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	○ 2		■								小川・北・佐藤・◎白鳥・津村・ 平山・福本・森・山下・*木田・ *武井・*西澤・*廣田		◇
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	○ 2		■										◇
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	○ 2		■										◇
	建築・環境CAD実習	○ 2		■										* 武井
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	○ 4		■								小川・川口・佐藤・白鳥・ 津村・◎山下		△
	建築構法	○ 2		■								平山		
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	○ 4			■							小川・北・白鳥・福本・◎渡辺・ *柏原(信)・*高坂		△
	建築材料実験	○ 2			■							北・◎佐藤・*白井(-)		
	建築環境工学	○ 2				■						* 飯野(秋)		
	建築計画Ⅰ	○ 2			■							◎北・佐藤		
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	○ 4				■						北・◎佐藤・津村・*飯野(由)・ *東海林・*田中(理)・*渡邊(詞)		△
	構造力学Ⅰ	○ 2				■						* 中村(孝)		
	建築材料	○ 2				■						津村・◎平山・森		
	建築構造	○ 2				■						* 涌井		
	計		42											
	測量学実習	○ 2				■						平山・福本・◎渡辺・*可児・*渡邊(信)		選択16単位以上
	建築・環境CG実習Ⅰ	○ 2				■						* 佐藤(圭)・◎*高木		
	都市計画	○ 2				■						渡辺		
	住宅リフォーム論	○ 2				■						川口		
	建築計画Ⅱ	○ 2				■						北・◎佐藤		
	緑地環境設計	○ 2				■						小川		
	建築・環境CG実習Ⅱ	○ 2				■						* 高木		
	構造力学Ⅱ	○ 2					■					* 中村(孝)		
	建築設備	○ 2					■					* 飯野(秋)		
建築設計	○ 2					■					山下			
エコロジカルプランニング	○ 2					■					◎小川・*鈴木(誠)			
建築法規	○ 2					■					◎佐藤・*川合			
建築施工	○ 2						■				* 五十嵐			
コミュニティデザイン	○ 2						■				福本			
計		28												
専門教育科目 コース別	インテリア コース	建築・インテリア演習Ⅰ	○ 4				■					小川・川口・佐藤・森・◎山下・*江尻・ *大淵・*柏原・*高田(清)	演習Ⅰ、Ⅱを通 して8単位	
		建築・インテリア演習Ⅱ	○ 4					■				小川・川口・北・佐藤・白鳥・ ◎森・山下		
	環境計画 コース	環境計画・保存演習Ⅰ	○ 4					■				津村・平山・福本・◎渡辺・ *梅嶋・*大滝・*西澤		
		環境計画・保存演習Ⅱ	○ 4						■			津村・平山・福本・◎渡辺・ *梅嶋・*大滝・*後藤・*西澤		
	計		16											
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	○ 2					■					◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・ 津村・平山・福本・森・山下・渡辺	必修4単位	
	ゼミⅡ	○ 2						■				◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・ 津村・平山・福本・森・山下・渡辺		
	計		4											
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3							■	■		◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・ 津村・平山・福本・森・山下・渡辺	必修6単位	
	卒業研究Ⅱ	3							■	■		◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・ 津村・平山・福本・森・山下・渡辺		
	計		6											

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件:△印の3科目のうち、2科目修得する

第4学年進級要件:△印の3科目及び所属コースの◆印の2科目のうち4科目を修得する

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に【】が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（2014～2017年度入学者）

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期
学芸員科目	生涯学習概論	○	2					■						*相庭	必修21単位
	博物館概論	○	2					■						津村	
	博物館経営論	○	2							■				*宮崎	
	博物館資料論	○	2							■				*小熊・*西田・*広井	
	博物館資料保存論	○	2							■				◎小川・津村・*大楽	
	博物館展示論	○	2								■			◎森・*土門	
	博物館情報・メディア論	○	2								■			◎津村・*浅井(勝)・*本多	
	博物館教育論	○	2									■		*山本(哲)	
	博物館実習		3									■		境野・菅原・長瀬・中村・◎平山	
	デザイン概論	○	2	■										馬場	
	計		21												
	プロダクトデザイン概論	○	2	■										◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田	選択1科目以上 2単位以上
	視覚デザイン概論	○	2	■										阿部・天野・吉川・◎金・徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本	
	美術・工芸概論	○	2		■									遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場	
	建築・環境デザイン概論	○	2		■									◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・渡辺・山下	
	計		8												
	日本文化論	○	2				■							◎*岡本・*黒川・*薩摩・*芹生	選択2科目以上 4単位以上
	美術論	○	2					■						*瀧本	
	地域文化論	○	2						■					◎*田中(洋)・*田邊・*筑波	
	文化人類学	○	2							■				板垣	
日本美術史	○	2	■										*大倉		
西洋美術史	○	2		■									*瀧本		
文化財学概論	○	2					■						◎津村・*大楽・*武内・*中山・*西田・*前嶋		
建築史	○	2							■				津村・◎平山		
測量学実習	○	2								■			平山・◎渡辺・*可兒・*渡邊(信)		
計		18													

注1 = 網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = 授業科目に〈〉が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

注5 = 測量学実習は建築・環境デザイン学科学生のみ履修することができる。

教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科2014～2017年度入学者）

区分	授業科目	単位数 (中学校一種 (美術))		単位数 (高校一種 (美術))		単位数 (高校一種 (工芸))		履修学年				担当教員	資格取得 最低単位数				
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	第1学年		第2学年				第3学年		第4学年	
								前期	後期	前期	後期			前期	後期	前期	後期
教科に関する 科目	基礎造形実習Ⅰ〈描写〉	○	2	2				■						略	必修32単位 高美:必修6単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈描写〉	○	2	2					■					略			
	美術・工芸コンピュータ演習	○	2	2						■				森本			
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(A)		4	4						■				遠藤・岡谷			
	表示図法	○				2					■			*齋藤(博)	高工:必修2単位		
	基礎造形実習Ⅰ〈造形〉	○	2	2					■					略	中美:必修8単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈造形〉	○	2	2						■				略	高美:必修8単位		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(B)		4	4							■			◎小林・長谷川			
	基礎造形実習Ⅰ〈デザイン〉	○	2	2	2				■					略	中美:必修6単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉	○	2	2	2					■				略	高美:必修6単位		
	美術・工芸・デザイン分析	○	2	2	2							■		◎中村・*浅賀・*扇原・*溝川・*加藤・*日野	高工:必修6単位		
	基礎造形実習Ⅰ〈素形材〉	○	2		2				■					略	中美:必修4単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉	○	2		2					■				略	高工:必修4単位		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(C)		4		4						■			菅野・◎中村・*相原・*手銭			
	美術論	○	2	2							■			*瀧本	中美:必修14単位		
	デザイン概論	○			2				■					馬場	高美:必修14単位		
	日本美術史	○	2	2					■					*大倉	高工:必修10単位		
	西洋美術史	○	2	2					■					*瀧本			
	色彩学	○			2				■					*三井			
	現代芸術論	○	2	2						■				*大倉			
美術・工芸概論	○	2	2	2				■					遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場				
美術解剖学	○	2	2						■				*伊藤(恵)				
美術・工芸材料学	○	2	2	2						■			菅野・菊池・中村・◎長谷川・*秋本・*井波・*岩崎・*楠八重・*平賀・*森田				
美術工芸史	○			2							■		*林(克)				
計		46	38	26													
教職に関する 科目	教職入門	○	2	2	2					■				竹田	必修2単位		
	教育原理	○	2	2	2					■				竹田	必修6単位		
	教育心理学	○	2	2	2					■				*小嶋			
	教育に関する社会的・制度的・経営的研究	○	2	2	2						■			竹田			
	教育課程の編成と実際	○	2	2	2						■			竹田	中美:必修20単位		
	美術科指導法	○	8	8	8							■		市川	高美:必修18単位		
	工芸指導法	○	4	4	4								■	市川	高工:必修18単位		
	道徳指導法	○	2								■			市川			
	特別活動指導法	○	2	2	2							■		市川・◎竹田			
	教育方法・技術	○	2	2	2							■		竹田			
	生徒・進路指導	○	2	2	2						■			*伊藤(敦)	必修4単位		
	教育相談	○	2	2	2							■		*伊藤(敦)			
	事前・事後指導	1	1	1									■	市川・◎竹田	中美:必修5単位		
	教育実習Ⅰ	2	2	2									■	市川・◎竹田	高美:必修3単位		
	教育実習Ⅱ	2	2	2									■	市川・◎竹田	高工:必修3単位		
	教職実践演習(中・高)	2	2	2									■	市川・◎竹田	必修2単位		
計		39	35	2	35	2											
教育職員免許 法施行規則 第66条の6に 定める科目	法学(日本国憲法)	○	2	2	2							■		*星野	必修2単位		
	スポーツ	○		2	2	2					■			*篠田	選択2単位以上		
	保健体育講義	○		2	2	2					■			*篠田			
	英語中級Ⅰ	○	2	2	2						■			菅原	選択2単位以上		
	英語中級Ⅱ	○	2	2	2						■			菅原			
	英語中上級Ⅰ	○	2	2	2						■			菅原			
	英語中上級Ⅱ	○	2	2	2						■			菅原			
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	○	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	○	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅢ	○	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅣ	○	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅤ	○	1	1	1							■			*エドワーズ・*ドライバー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅥ	○	1	1	1							■			*エドワーズ・*ドライバー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅦ	○	1	1	1							■			*ドライバー・*レイサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅧ	○	1	1	1							■			*ドライバー・*レイサム		
美術・工芸コンピュータ基礎演習	○	2	2	2								■		池永	必修2単位		
計		4	20	4	20	4	20										

注1 = 中美は中学校一種(美術)、高美は高等学校一種(美術)、高工は高等学校一種(工芸)の略

注2 = 網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。

注3 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注4 = 授業科目に〈〉が付された科目は2018年度以降入学者用科目として授業名が異なる。〈〉が付された科目及び○印の科目の授業概要は、2018年度以降入学者の授業科目を参照すること。なお、パレットには2018年度以降入学者用の科目名が表示される。

注5 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

3-3 進級要件・卒業要件（2014～2017年度入学者）

【プロダクトデザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」(1科目4単位)及び「プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A)・(B)」のうち、どちらか1科目(4単位)の、計2科目8単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5	
	言語系	選択必修	22		4
		選択	32		14
小計				5	18
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		36
	学科共通	必修	20	20	
		選択必修	8		4
		選択	14		8
	コース別演習	必修	8	8	
ゼミ	必修	4	4		
卒業研究	必修	6	6		
小計				53	48
合計				58	66
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計36単位を修得する必要がある。

【視覚デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「視覚デザイン基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(2科目8単位)及び区分「選択必修①」から1科目(4単位)、区分「選択必修②」から2科目(8単位)の、計5科目20単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数		
				必修	選択	
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5		
	言語系	選択必修	22		4	
		選択	32		14	
小計				5	18	
専門教育科目	学部共通	必修	15	15		
		選択	90		22	
	学科共通	必修	26	26		
		選択	選択必修①	12		4
			選択必修②	20		8
			選択(①、②を除く)	8		8
コース別演習	必修	8	8			
ゼミ	必修	4	4			
卒業研究	必修	6	6			
小計				59	42	
合計				64	60	
合計					124	

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計22単位を修得する必要がある。

【美術・工芸学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「美術・工芸基礎演習Ⅰ(A)(B)(C)」及び「美術・工芸基礎実習Ⅱ」の4科目16単位を修得していること。
4年次進級要件	「3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ゼミⅠ・Ⅱ」の4科目12単位を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5	
	言語系	選択必修	22		4
		選択	32		12
小計				5	16
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		30
	学科共通	必修	32	32	
		選択	18		10
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
卒業研究	必修	6	6		
小計				65	40
				70	56
合計					126

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計30単位を修得する必要がある。

【建築・環境デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3科目のうちから2科目8単位以上を修得していること。
4年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」の5科目20単位のうちから、4科目16単位以上を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	5	5	
	言語系	選択必修	22		4
		選択	32		10
小計				5	14
専門教育科目	学部共通	必修	15	15	
		選択	90		18
	学科共通	必修	42	42	
		選択	28		16
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
卒業研究	必修	6	6		
小計				75	34
				80	48
合計					128

※学部共通選択科目は、第1、第3区分から各2科目以上、第2区分から4科目以上、第4区分から1科目以上、合計18単位を修得する必要がある。

4 2018年度以降入学者カリキュラムの教育課程

4-1 カリキュラム体系 (2018年度以降入学者)

プロダクトデザイン学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
②保健体育講義 ②スポーツ ②社会心理学 ②日本文化論 ②美術論 ②環境と社会 ②法学 (日本国憲法) ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論 ②哲学	②英語中級 I ②英語中上級 I ①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	②英語中級 II ②英語中上級 II ①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ	②英語上級 I ②現代社会論 ②社会起業 ①キャリア計画実習 I	②英語上級 II ①キャリア計画実習 II	①キャリア計画実習 II	①キャリア計画実習 II	①キャリア計画実習 II	①キャリア計画実習 II
②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素材材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論	②色彩学	①視覚 A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①視覚 B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B	①美術・工芸特別講義	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②地域協創演習 D
②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②美術解剖学	①美術・工芸特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②地域協創演習 D
②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②地域協創演習 D
②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②博物館概論	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②地域協創演習 D
②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C ②地域協創演習 D	②地域協創演習 C ②地域協創演習 D	②地域協創演習 C ②地域協創演習 D	②地域協創演習 C ②地域協創演習 D	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学	②スノーブラン ②地域協創演習 D	②地域協創演習 D
②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン)	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン)	①プロダクトデザイン特別講義 ④プロダクトデザイン基礎実習 I ②プロダクト材料学	④プロダクトデザイン基礎実習 II (A) ④プロダクトデザイン基礎実習 II (B) ②生産技術論					
②プロダクトデザイン概論 ②プロダクトコンピュータ基礎演習	②プロダクトデザイン概論 ②プロダクトコンピュータ基礎演習	②プロダクトスケッチ実習 II ②プロダクト3DCG演習 I	②プロダクトCAD演習 ②プロダクト3DCG演習 II ②ファッション画実習 ②テキスタイル・ファッションCAD演習					
④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II	④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II	④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II	④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I	④プロダクトデザイン演習 II ④テキスタイル・ファッション演習 II ②ゼミ II	④プロダクトデザイン演習 I ④テキスタイル・ファッション演習 I ②ゼミ I
③卒業研究 I	③卒業研究 II	③卒業研究 I	③卒業研究 II	③卒業研究 I	③卒業研究 II	③卒業研究 I	③卒業研究 II	③卒業研究 I

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

発想力を鍛える

技術力を身につける

発想力を鍛える

創造力を発揮する

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

視覚デザイン学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養科目	②保健体育講義	②スポーツ	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論		②哲学		
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II				
ソーシャル・スキルズ キャリアデザイン教育	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ	②現代社会論 ②社会起業	①キャリア計画実習 I	①キャリア計画実習 II			
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素材材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論	②色彩学						
クロス実習			①プロダクト A ①美術・工芸 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①美術・工芸 B ①建築・環境 B				
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論 ②美術・工芸概論	②現代芸術論 ②美術解剖学	①美術・工芸特別講義				
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学		
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン 実践的なプロジェクトで 「社会人基礎力」「構想力」 「造形力」を身につける		
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
視覚デザイン 学科科目	②視覚デザイン概論 ②視覚コンピュータ基礎演習	②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ②視覚コンピュータ I	①視覚デザイン特別講義 ④視覚コンピュータ II ④写真 ④描写基礎 ④映像 I	④WEB デザイン ④タイポグラフィ ④映像 II ④描写表現 ②視覚デザイン論 ④視覚デザイン基礎演習 II	④サウンドデザイン	④商業演習		
伝達デザインコース 表現デザインコース ゼミ科目			④視覚デザイン基礎演習 I		④伝達デザイン演習 I ④表現デザイン演習 I ②ゼミ I	④伝達デザイン演習 II ④表現デザイン演習 II ②ゼミ II		
卒業研究						③卒業研究 I	③卒業研究 II	

コース配属

研究室配属

進級要件

進級要件

進級要件

卒業要件

社会人基礎力の養成

NIDの学びを理解し、卒業後の進路を明確にする

造形の基礎力を養成

専門的・横断的な知識を身につける

実践的なプロジェクトで「社会人基礎力」「構想力」「造形力」を身につける

技術力を身につける

考える力を身につける

創造力を発揮する

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

美術・工芸学科カリキュラムフロー

教養科目	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
②保健体育講義	②スポーツ	②社会心理学 ②日本文化論	②美術論 ②環境と社会 ②法学（日本国憲法） ②地域文化論 ②文化人類学 ②科学技術論	②哲学				
言語系	②英語中級 I ②英語中上級 I	②英語中級 II ②英語中上級 II	②英語上級 I	②英語上級 II				
ソーシャル・スキルズ キャリアデザイン教育	①英語オーラルコミュニケーションI ①英語オーラルコミュニケーションIII ①英語オーラルコミュニケーションV ①英語オーラルコミュニケーションVII ②論理学	①英語オーラルコミュニケーションII ①英語オーラルコミュニケーションIV ①英語オーラルコミュニケーションVI ①英語オーラルコミュニケーションVIII ②情報リテラシー ②統計学 ②基礎ゼミ	②現代社会論 ②社会起業	①キャリア計画実習 I	①キャリア計画実習 II			
専門教育科目 [学部共通]	②基礎造形実習 I (描写) ②基礎造形実習 I (造形) ②基礎造形実習 I (素材材) ②基礎造形実習 I (デザイン) ②基礎造形実習 I (複合造形) ②デザイン概論							
クロス実習		②色彩学	①プロダクト A ①視覚 A ①建築・環境 A	①プロダクト B ①視覚 B ①建築・環境 B				
第1区分 美術・工芸系	②日本美術史	②西洋美術史 ②形態デザイン論	②現代芸術論 ②美術解剖学					
第2区分 プロダクト・視覚系	②プロダクトデザイン概論 ②視覚デザイン概論	②人間工学	②メディア概論 ①プロダクトデザイン特別講義 ①視覚デザイン特別講義	②商品記号論 ②ユーザインタフェースデザイン論 ②マーケティング論 ②広告論	②デザイン感性工学 ②サインデザイン論 ④パッケージデザイン演習	②デザインマネジメント ②知的財産権論 ②機構学		
第3区分 建築・環境系		②建築・環境デザイン概論	②都市論 ②インテリア ②空間安全論 ②文化財学概論 ②緑地環境計画	②都市デザイン ②居住論 ②建築史 ①建築・環境デザイン特別講義	②博物館概論	②スノーブラン	実践的なプロジェクトで 「社会人基礎力」「構想力」 「造形力」を身につける	
第4区分 地域・社会連携系			②地域協創演習 A ①インターンシップ A ①ボランティア実習 A	②地域協創演習 B ①インターンシップ B ①ボランティア実習 B	②地域協創演習 C	②地域協創演習 D		
美術・工芸 学科科目	②美術・工芸コンピュータ基礎演習		②美術・工芸基礎演習 I (絵画) ②美術・工芸基礎演習 I (彫刻) ②美術・工芸基礎演習 I (工芸) ②美術・工芸基礎演習 I (複合)	①美術・工芸特別講義 ⑧美術・工芸基礎演習 II ②美術・工芸材料学 ④描写表現 ②古美術研究 ②生産技術論 ②プロダクト CAD 演習 ②プロダクト 3DCG 演習 II	②美術・工芸・デザイン分析 ②美術工芸史			
美術表現コース クラフトデザインコース ゼミ科目		②基礎造形実習 II (描写) ②基礎造形実習 II (造形) ②基礎造形実習 II (素材材) ②基礎造形実習 II (デザイン) ②美術・工芸概論 ②美術・工芸コンピュータ演習 ②プロダクトスケッチ実習 I	②表示図法 ②プロダクトスケッチ実習 II ②プロダクト 3DCG 演習 I	④美術表現演習 I ④クラフトデザイン演習 I ②ゼミ I	④美術表現演習 II ④クラフトデザイン演習 II ②ゼミ II		確かな 造形力を 身につける	
卒業研究							③卒業研究 I	③卒業研究 II
就職に関する 科目 (2018 年度入学者)			②就職入門 ②教育心理学 ②生徒・進路指導	②教育原理 ②教育課程の編成と実際 ②道徳指導法 ②特別活動指導法	⑧美術科指導法 ②教育に関する社会的・制度的・ 経営的研究 ②教育相談	④工芸指導法 ②教育方法・技術	①事前・事後指導 ②教育実習 I ②教育実習 II	②教職実践演習 (中・高)
教科及び就職 に関する科目 (2019 年度以降入学者)			②就職入門 ②教育心理学 ②生徒・進路指導	②教育原理 ②教育課程の編成と実際 ②道徳指導法 ②総合的な学習の時間及び 特別活動指導法	⑧美術科指導法 ②教育制度論 ②特別支援教育 ②教育相談	②教育方法・技術	①事前・事後指導 ②教育実習 I ②教育実習 II	②教職実践演習 (中・高)

社会人基礎力
の養成

NIDの学びを理解
し、卒業後の進路
を明確にする

造形の基礎力
を養成

専門的・横断的な
知識を身につける

基礎力・発想力を
身につける

素材と手法を
理解する

創造力を
発揮する

●は必修科目
■は選択必修科目
○は選択科目
科目名が赤色：進級要件にかかわる科目
数字は単位数

4-2 授業科目・単位数・担当教員（2018年度以降入学者）

(1) 教養科目

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	卒業資格 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
教養	スポーツ		2		■								* 篠田	選択10～14単位 (学科により異なる)	
	保健体育講義		2	■									* 篠田		
	社会心理学		2			■							◎*天野(美)・*大野(志)		
	日本文化論		2			■							◎*岡本・*黒川・*薩摩・*芹生		
	美術論		2				■						* 瀧本		
	環境と社会		2				■						* 水流		
	地域文化論		2				■						◎*田中(洋)・*田邊・*筑波		
	文化人類学		2				■						板垣		
	法学(日本国憲法)		2				■						* 星野(徹)		
	科学技術論		2				■						* 寺島		
	哲学		2							■			菅原		
	言語系	英語中級Ⅰ		2	■									菅原・*木伏	選択必修 4単位 それ以上は、 教養科目とし て卒業要件 単位数に含 める
		英語中級Ⅱ		2		■								菅原・*木伏	
		英語中上級Ⅰ		2	■									菅原	
		英語中上級Ⅱ		2		■								菅原	
		英語上級Ⅰ		2			■							菅原	
		英語上級Ⅱ		2				■						菅原	
		英語オーラルコミュニケーションⅠ		1	■									バンゴースム	
		英語オーラルコミュニケーションⅡ		1		■								バンゴースム	
英語オーラルコミュニケーションⅢ			1	■									バンゴースム		
英語オーラルコミュニケーションⅣ			1		■								バンゴースム		
ソーシャル・スキルズ	英語オーラルコミュニケーションⅤ		1	■									*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅥ		1		■								*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅦ		1	■									*ドライアー・*レイサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅧ		1		■								*ドライアー・*レイサム		
	キャリアデザイン教育		2			■							板垣・市川・◎金山・北・小松・竹田・徳久・福本・森本	必修4単位	
	キャリア計画実習Ⅰ		1				■						◎菅野・専任教員・*椎名・*高橋・*横部		
	キャリア計画実習Ⅱ		1						■				◎菅野・*椎名・*高橋・*横部		
	論理学		2	■									* 市野		
統計学		2		■								福本			
情報リテラシー		2		■								* 横田			
現代社会論		2			■							* 広田			
社会起業		2			■							福本			
計		4	52												

注1 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注2 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(2) 専門教育科目〔学部共通〕

区分	授業科目	単位数		履修学年	進級に関わる科目	担当教員	卒業資格 最低単位数				
		必修	選択					履修形態			
								第1学年 前期	第1学年 後期	第2学年 前期	第2学年 後期
専門教育科目 学部共通	基礎造形実習Ⅰ(描写)	2	●	■			◇	必修14単位			
	基礎造形実習Ⅰ(造形)	2	●	■			◇				
	基礎造形実習Ⅰ(素材材)	2	●	■			◇				
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	2	●	■			◇				
	基礎造形実習Ⅰ(複合造形)	2	●	■			◇				
	デザイン概論	2	○	■					馬場		
	色彩学	2	○	■					*三井		
	計	14									
クロス実習	プロダクトA	1	●		■			金澤・菊池・◎齋藤・境野・土田・増田	合計16単位 35単位以上(所属学科により異なる)		
	プロダクトB	#	1	●		■					
	視覚A	1	●		■			真壁			
	視覚B	#	1	●		■					
	美・工A	1	●		■			岡谷			
	美・工B	1	●		■			長谷川			
	建築・環境A	1	●		■			A-1 ◎小川・菅原・福本・渡辺 A-2 川口・◎森			
	建築・環境B	1	●		■			◎津村・平山			
第1区分	日本美術史	2	○	■				*大倉	第1区分: 美術・工芸系 選択2科目以上		
	西洋美術史	2	○		■			*瀧本			
	形態デザイン論	2	○		■			*三井			
	美術・工芸概論※	2	○		■			遠藤・◎岡谷・菅野・小林・鈴木・中村・長谷川・馬場			
	現代芸術論	2	○		■			*大倉			
	美術解剖学	2	○		■			*伊藤(恵)			
	美術・工芸特別講義※	1	○		■			◎岡谷・*大巻・*小曾川・*小林(正)・*長井			
	計	14									
第2区分	プロダクトデザイン概論※	2	○	■				◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田	第2区分: プロダクト、 視覚系 選択2科目以上		
	視覚デザイン概論※	2	○	■				阿部・天野・吉川・◎金・徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本			
	人間工学	2	○		■			*三村			
	メディア概論	2	○		■			◎真壁・*大野・*澤・*林(洋)・*松本(祐)・*山田(興)			
	プロダクトデザイン特別講義※	1	○		■			◎池永・*上野(和)・*玉井・*松本(有)・*非常勤			
	視覚デザイン特別講義※	1	○		■			◎真壁・*太田・*五島・*林(俊)・*山本(信)			
	商品記号論	2	○		■			*佐古			
	ユーザインタフェースデザイン論	2	○		■			*尾田			
	マーケティング論	2	○		■			*上原			
	広告論	2	○		■			*嶋田			
	デザイン感性工学	2	○			■		境野			
	サインデザイン論	2	○			■		吉川・◎金・山本・*鎌田			
	パッケージデザイン演習	4	○			■		◎山本・*大塚(麻)			
	デザインマネジメント	2	○				■	池永			
知的財産権論	2	○				■	*本多				
機構学	2	○				■	*磯部				
第3区分	建築・環境デザイン概論※	2	○		■			◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	第3区分: 建築・環境系 選択2科目以上		
	都市論	2	○		■			渡辺			
	インテリア	2	○		■			川口・◎森			
	空間安全論	2	○		■			◎福本・*稲垣			
	文化財学概論	2	○		■			◎津村・*大楽・*武内・*中山・*西田・*前嶋			
	緑地環境計画	2	○		■			小川			
	都市デザイン	2	○		■			白鳥			
	居住論	2	○		■			山下			
	建築史	2	○		■			津村・◎平山			
	建築・環境デザイン特別講義※	1	○		■			◎小川・*伊藤(拓)・*木村(勉)・*齋藤(公)・*森(民)			
	博物館概論	2	○			■		津村			
	スノープラン	2	○				■	平山・境野・長谷川・ビューラ・◎山下・*上村・*本吉			
第4区分	地域協創演習A	2	○		■	■		専任教員	第4区分: 地域・社会連携系 選択1科目以上		
	地域協創演習B	2	○		■	■		専任教員			
	地域協創演習C	2	○			■	■	専任教員			
	地域協創演習D	2	○			■	■	専任教員			
	インターンシップA	1	●		■	■		専任教員			
	インターンシップB	1	●		■	■		専任教員			
	ボランティア実習A	1	●		■	■		専任教員			
	ボランティア実習B	1	●		■	■		専任教員			
計	88										

注1 = 進級要件について 第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得すること
 注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
 注3 = ※印 所属学科以外の概論、特別講義を学部共通選択科目とする。
 注4 = #印の授業科目は2020年度に開講しない。
 注5 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(3) 専門教育科目 [プロダクトデザイン学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								進級に関わる科目	担当教員	卒業資格 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期	後期
専門教育科目 [プロダクト デザイン学科共通]	プロダクトデザイン概論	2		■									◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田	必修23単位		
	プロダクトコンピュータ基礎演習	2		■									金澤			
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■							◇				
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							◇	池永・金澤・金山・菊池・◎齋藤・境野・鈴木・土田・増田・*近藤・*若子			
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■							◇				
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■							◇				
	プロダクトコンピュータ演習	2			■								金澤			
	プロダクトデザイン特別講義	1				■							◎池永・*上野(和)・*非常勤・*玉井・*松本(有)			
	プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ	4				■						△	池永・◎金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田・*近藤			
	プロダクト材料学	2				■							◎菊池・*齋藤(博)			
	生産技術論	2					■						◎境野・長谷川・*齋藤(博)			
	計	23														
	選択必修	プロダクトスケッチ実習Ⅰ	2		■										池永・◎齋藤	選択8単位以上
		プロダクトスケッチ実習Ⅱ	2			■									◎齋藤・増田	
プロダクト3DCG演習Ⅰ		2			■								土田			
プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(A)		4				■						▲	池永・金澤・◎金山・齋藤・境野・土田・増田			
プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ(B)		4				■						▲	菊池・◎鈴木・*安永			
プロダクトCAD演習		2				■							金山・◎土田			
プロダクト3DCG演習Ⅱ		2				■							土田			
ファッション画実習		2				■							*金石			
テキスタイル・ファッションCAD演習		2				■							◎鈴木・*安永・*山本(正)			
計		22														
専門教育科目 コース別	デザインコース プロダクトデザイン演習Ⅰ	4				■						◆	池永・金澤・金山・齋藤・境野・◎土田・増田	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位		
	デザインコース プロダクトデザイン演習Ⅱ	4					■					◆	池永・金澤・金山・齋藤・◎境野・土田・増田			
	テキスタイルコース テキスタイル・ファッション演習Ⅰ	4					■					◆	菊池・◎鈴木・*金石			
	テキスタイルコース テキスタイル・ファッション演習Ⅱ	4						■				◆	菊池・◎鈴木・*金石			
	計	16														
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2					■						◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田	必修4単位		
	ゼミⅡ	2						■					◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田			
	計	4														
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3								■	■		◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田・*金石	必修6単位		
	卒業研究Ⅱ	3								■	■		◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田・*金石			
	計	6														

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること

第3学年進級要件：△印の科目及び▲印の科目のうち1科目、計2科目の8単位をすべて修得すること

第4学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(4) 専門教育科目 [視覚デザイン学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								進級に関わる科目	担当教員	卒業資格最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [視覚デザイン学科共通]	視覚デザイン概論	2		■									阿部・天野・吉川・◎金・徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本	必修29単位	
	視覚コンピュータ基礎演習	2		■									金・◎徳久・ビューラ・真壁		
	基礎造形実習Ⅱ〈描写〉	2			■						◇		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI		
	基礎造形実習Ⅱ〈造形〉	2			■						◇		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI		
	基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉	2			■						◇		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI		
	基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉	2			■						◇		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・御法川・水川・山田・山本・*川崎・*高島・*たかだ(み)・*原田・*HARUKI		
	視覚コンピュータⅠ	2			■								◎金・徳久・ビューラ・真壁		
	視覚デザイン特別講義	1				■							◎真壁・*太田・*五鳥・*林(俊)・*山本(信)		
	視覚デザイン基礎演習Ⅰ	4				■					▽		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本・*追・*さとう(り)・*古屋・*三田村		
	視覚コンピュータⅡ	4				■							天野・徳久・◎真壁・*矢尾板		
	視覚デザイン基礎演習Ⅱ	4					■				▽		阿部・天野・吉川・金・◎徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本・*追・*さとう(り)・*古屋		
	視覚デザイン論	2					■						阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・水川・御法川・山田・山本		
	計	29													
	選択必修①	写真	4			■						△	阿部・◎松本・*中村(雅)・*南雲	選択必修4単位	
		描写基礎	4			■						△	長瀬・◎御法川・*内堀		
		映像Ⅰ	4				■					△	ビューラ・◎山田・*木場・*佐藤(誠)・*長谷川(隆)・*原田		
		Webデザイン	4					■				▲	徳久・◎真壁・*沖・*中西・*矢尾板		
		選択必修②	タイポグラフィ	4					■				▲	◎天野・吉川・*阿部(宏)	選択必修4単位
			映像Ⅱ	4					■				▲	◎ビューラ・*万年	
			描写表現	4					■				▲	長瀬・◎御法川・*伊藤(彰)・*羽川	
サウンドデザイン			4						■			◎ビューラ・*宇波・*吹田・*明石			
コマース演習			4							■		水川・◎山田・*下地			
計			36												
専門教育科目 コース別	伝達デザイン コース	伝達デザイン演習Ⅰ	4					■			◆	阿部・天野・吉川・金・真壁・水川・山田・◎山本・*相澤・*石川・*佐野・*嶋田・*角田・*溝口	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位		
		伝達デザイン演習Ⅱ	4						■		◆	阿部・天野・吉川・金・真壁・水川・山田・◎山本・*相澤・*石川			
	表現デザイン コース	表現デザイン演習Ⅰ	4						■		◆	徳久・長瀬・ビューラ・◎松本・御法川・*伊藤(彰)・*大河原・*大西・*五鳥・*早園・*本間			
		表現デザイン演習Ⅱ	4							■	◆	徳久・長瀬・ビューラ・◎松本・御法川・大河原・*大塚(い)・*大西・*川上(典)・*木場・*シミズタニ・*白井(里)・*丸山(晶)・*山本(裕)			
		計	16												
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2							■			◎阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本	必修4単位		
	ゼミⅡ	2								■		阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・水川・御法川・山田・山本			
	計	4													
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3								■	■	阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・御法川・山田・山本	必修6単位		
	卒業研究Ⅱ	3								■	■	阿部・天野・吉川・金・徳久・長瀬・ビューラ・◎真壁・松本・御法川・山田・山本			
	計	6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること

第3学年進級要件：▽印の2科目及び△印の科目のうち1科目、▲科目のうち1科目、計4科目の単位をすべて修得すること

第4学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(5) 専門教育科目 [美術・工芸学科]

区分	授業科目	単位数		履修学年								進級に関わる科目	担当教員	卒業資格 最低単位数	
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				前期
専門教育科目 [美術・工芸学科共通]	美術・工芸概論	2			■								遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場	必修35単位	
	美術・工芸コンピュータ基礎演習	2		■									池永		
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2			■							◇	遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・*奥田・*柏田・*川上(敦)・*川崎・*北村・*星・*森崎・*李		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2			■							◇			
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2			■							◇			
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2			■							◇			
	美術・工芸コンピュータ演習	2			■										森本
	美術・工芸特別講義	1					■						◎岡谷・*大巻・*小曾川・*小林(正)・*長井		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)	2					■						△ 遠藤・◎岡谷・*ミーヨン		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(彫刻)	2					■						△ ◎小林・長谷川・*新村		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(工芸)	2					■						△ 菅野・◎中村・*相原・*手銭		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(複合)	2					■						△ 遠藤・岡谷・菅野・小林・中村・◎長谷川・*新村・*ミーヨン・*相原・*手銭		
	美術・工芸基礎演習Ⅱ	8						■					△ 遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・*下山・*杉原・*中安・*手銭・*藪内		
	美術・工芸材料学	2						■					菅野・菊池・中村・◎長谷川・*秋本・*井波・*岩崎・*植八重・*平賀・*森田		
	古美術研究	2						■					遠藤・岡谷・菅野・小林・中村・◎長谷川・*伊藤(哲)・*和田		
	計	35													
	プロダクトスケッチ実習Ⅰ	2			■									池永・◎齋藤	選択10単位以上
	表示図法	2					■							* 齋藤(博)	
	プロダクトスケッチ実習Ⅱ	2					■							◎齋藤・増田	
	プロダクト3DCG演習Ⅰ	2					■							土田	
	描写表現	4						■						長瀬・◎御法川・*伊藤(彰)・*羽川	
	生産技術論	2						■						◎境野・長谷川・*齋藤(博)	
プロダクトCAD演習	2						■						金山・◎土田		
プロダクト3DCG演習Ⅱ	2						■						土田		
美術・工芸・デザイン分析	2							■					◎中村・*浅賀・*扇原・*加藤・*日野・*溝川		
美術工芸史	2								■				* 林(克)		
計	22														
専門教育科目 コース別	美術表現 コース	美術表現演習Ⅰ	4						■				◆ 遠藤・◎岡谷・小林・*塩谷・*嶋崎	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位	
		美術表現演習Ⅱ	4							■			◆ ◎遠藤・岡谷・小林・*新村		
	クラフト デザイン コース	クラフトデザイン演習Ⅰ	4						■				◆ 菅野・◎中村・長谷川・*井上・*齋藤(直)		
		クラフトデザイン演習Ⅱ	4								■		◆ ◎菅野・中村・長谷川・*石渡・*氣賀澤		
計	16														
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2							■				◆ 遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・*手銭	必修4単位	
	ゼミⅡ	2								■			◆ 遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・*藪内		
	計	4													
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3									■	■	遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川	必修6単位	
	卒業研究Ⅱ	3									■	■	遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川		
	計	6													

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件：◇印の科目の単位をすべて修得すること

第3学年進級要件：△印の5科目の単位をすべて修得すること

第4学年進級要件：所属コースの◆印の科目の単位及びゼミ科目の◆印の単位をすべて修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

(6) 専門教育科目 [建築・環境デザイン学科]

区分	授業科目	単位数	履修学年								進級に関わる科目	担当教員	卒業資格最低単位数	
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門教育科目 [建築・環境デザイン 学科共通]	建築・環境デザイン概論	2		■								○小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	必修45単位	
	建築・環境コンピュータ基礎演習	2	■									*武井		
	製図実習	2	■									平山・◎森		
	基礎数学	2	■									北・◎津村・福本		
	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2		■						◇		小川・北・佐藤・◎白鳥・津村・平山・福本・森・山下・*木田・*武井・*西澤・*廣田		
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2		■						◇				
	基礎造形実習Ⅱ(素形材)	2		■						◇				
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2		■						◇				
	建築・環境CAD実習	2		■								*武井		
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4		■						△		小川・川口・佐藤・白鳥・津村・◎山下		
	建築構法	2		■								平山		
	建築・環境デザイン特別講義	1				■						◎小川・*伊藤(拓)・*木村(勉)・*斎藤(公)・*森(民)		
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4			■					△		小川・北・白鳥・福本・◎渡辺・*柏原(信)・*高坂		
	建築材料実験	2			■							北・◎佐藤・*白井(一)		
	建築環境工学	2				■						*飯野(秋)		
	建築計画Ⅰ	2			■							◎北・佐藤		
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4				■				△		北・◎佐藤・津村・*飯野(由)・*東海林・*田中(理)・*渡邊(詞)		
	構造力学Ⅰ	2				■						*中村(孝)		
	建築材料	2				■						津村・◎平山・森		
	建築構造	2				■						*涌井		
	計	45												
	測量学実習	2			■							平山・福本・◎渡辺・*可兒・*渡邊(信)		選択16単位以上
	建築・環境CG実習Ⅰ	2			■							*佐藤(圭)・◎*高木		
	都市計画	2			■							渡辺		
	住宅リフォーム論	2			■							川口		
	建築計画Ⅱ	2				■						北・◎佐藤		
	緑地環境設計	2				■						小川		
	建築・環境CG実習Ⅱ	2				■						*高木		
構造力学Ⅱ	2					■					*中村(孝)			
建築設備	2					■					*飯野(秋)			
建築設計	2					■					山下			
エコロジカルプランニング	2					■					◎小川・*鈴木(誠)			
建築法規	2					■					◎佐藤・*川合			
建築施工	2						■				*五十嵐			
コミュニティデザイン	2						■				福本			
計	28													
専門教育科目 コース別	インテリアコース	建築・インテリア演習Ⅰ	4				■				◆	小川・川口・佐藤・森・◎山下・*大瀧・*柏原・*高田(清)・*江尻	演習Ⅰ、Ⅱを通して8単位	
		建築・インテリア演習Ⅱ	4					■			◆	小川・川口・北・佐藤・白鳥・◎森・山下		
	環境計画コース	環境計画・保存演習Ⅰ	4					■			◆	津村・平山・福本・◎渡辺・*梅嶋・*大滝・*西澤		
		環境計画・保存演習Ⅱ	4						■		◆	津村・平山・福本・◎渡辺・*梅嶋・*大滝・*後藤・*西澤		
	計	16												
専門教育科目 ゼミ科目	ゼミⅠ	2					■					◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	必修4単位	
	ゼミⅡ	2						■				◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺		
	計	4												
専門教育科目 [卒業研究]	卒業研究Ⅰ	3							■	■		◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺	必修6単位	
	卒業研究Ⅱ	3							■	■		◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・山下・渡辺		
	計	6												

注1 = 進級要件について

第2学年進級要件:◇印の科目の単位をすべて修得する

第3学年進級要件:△印の3科目のうち、2科目修得する

第4学年進級要件:△印の3科目及び所属コースの◆印の2科目のうち、4科目を修得すること

注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師

注3 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（2018年度以降入学者）

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数		
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期
学芸員科目	生涯学習概論	2						■					*相庭	必修21単位	
	博物館概論	2						■					津村		
	博物館経営論	2								■			*宮崎		
	博物館資料論	2								■			*小熊・*西田・*広井		
	博物館資料保存論	2								■			◎小川・津村・*大楽		
	博物館展示論	2									■		◎森・*土門		
	博物館情報・メディア論	2									■		◎津村・*浅井(勝)・*本多		
	博物館教育論	2										■			*山本(哲)
	博物館実習	3										■			境野・菅原・長瀬・中村・◎平山
	デザイン概論	2		■											馬場
	計	21													
	プロダクトデザイン概論	2		■										◎池永・金澤・金山・菊池・齋藤・境野・鈴木・土田・増田	選択1科目以上 2単位以上
	視覚デザイン概論	2		■										阿部・天野・吉川・◎金・徳久・長瀬・ビューラ・真壁・松本・水川・御法川・山田・山本	
	美術・工芸概論	2			■									遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場	
	建築・環境デザイン概論	2			■									◎小川・川口・北・佐藤・白鳥・菅原・津村・平山・福本・森・渡辺・山下	
	計	8													
	日本文化論	2				■								◎*岡本・*黒川・*薩摩・*芹生	選択2科目以上 4単位以上
	美術論	2					■							*瀧本	
	地域文化論	2						■						◎*田中(洋)・*田邊・*筑波	
	文化人類学	2							■					板垣	
	日本美術史	2		■										*大倉	
西洋美術史	2			■									*瀧本		
文化財学概論	2						■						◎津村・*大楽・*武内・*中山・*西田・*前嶋		
建築史	2							■					津村・◎平山		
測量学実習	2							■					平山・◎渡辺・*可兒・*渡邊(信)		
計	18														

注1 = 網掛けした科目は、学芸員課程受講者のみが履修する科目。また、3年次のみ履修可能。
 注2 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
 注3 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。
 注4 = 測量学実習は建築・環境デザイン学科学学生のみ履修することができる。

教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科2018年度入学者）

区分	授業科目	単位数 (中学校一種(美術))		単位数 (高校一種(美術))		単位数 (高校一種(工芸))		履修学年				担当教員	資格取得 最低単位数				
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	第1学年		第2学年				第3学年		第4学年	
								前期	後期	前期	後期			前期	後期	前期	後期
教科に関する 科目	基礎造形実習Ⅱ〈描写〉	2	2						■					(略)	中美:必修6単位		
	美術・工芸コンピュータ演習	2	2						■					森本	高美:必修6単位		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)	2	2							■				速藤・岡谷・*ミーヨン			
	表示図法				2					■				*齋藤(博)	高工:必修2単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈造形〉	2	2						■					(略)	中美:必修4単位		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(彫刻)	2	2							■				◎小林・長谷川・*新村	高美:必修4単位		
	基礎造形実習Ⅰ〈デザイン〉	2	2	2				■						(略)	中美:必修6単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈デザイン〉	2	2	2					■					(略)	高美:必修6単位		
	美術・工芸・デザイン分析	2	2	2							■			◎中村・*浅賀・*扇原・*加藤・*日野・*溝川	高工:必修6単位		
	基礎造形実習Ⅱ〈素形材〉	2		2					■					(略)	中美:必修4単位		
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(工芸)	2		2						■				菅野・◎中村・*相原・*手銭	高工:必修4単位		
	美術論	2	2								■			*瀧本	中美:必修14単位		
	デザイン概論			2					■					馬場	高美:必修14単位		
	日本美術史	2	2						■					*大倉	高工:必修10単位		
	西洋美術史	2	2							■				*瀧本			
	色彩学			2							■			*三井			
	現代芸術論	2	2								■			*大倉			
	美術・工芸概論	2	2	2					■					速藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場			
美術解剖学	2	2							■				*伊藤(恵)				
美術・工芸材料学	2	2	2							■			菅野・菊池・中村・◎長谷川・*秋本・*井波・*岩崎(靖)・*楠八重・*平賀・*森田				
美術工芸史			2								■		*林(克)				
計	34	30	22														
教職に関する 科目	教職入門	2	2	2						■				竹田	必修2単位		
	教育原理	2	2	2						■				竹田	必修6単位		
	教育心理学	2	2	2						■				*小嶋			
	教育に関する社会的・制度的・経営的研究	2	2	2							■			竹田			
	教育課程の編成と実際	2	2	2							■			竹田	中美:必修16単位		
	美術科指導法	8	8	8								■		市川	高美:必修14単位		
	工芸指導法			4								■		市川	高工:必修18単位		
	道徳指導法	2									■			市川			
	特別活動指導法	2	2	2							■			◎市川・竹田			
	教育方法・技術	2	2	2								■		竹田			
	生徒・進路指導	2	2	2							■			*伊藤(敦)	必修4単位		
	教育相談	2	2	2								■		*伊藤(敦)			
	事前・事後指導	1	1	1									■	市川・◎竹田	中美:必修5単位		
	教育実習Ⅰ	2	2	2									■	市川・◎竹田	高美:必修3単位		
	教育実習Ⅱ	2	2	2									■	市川・◎竹田	高工:必修3単位		
	教職実践演習(中・高)	2	2	2									■	市川・◎竹田	必修2単位		
計	35	31	2	35	2												
教育職員免許法 施行規則 第66条の6に 定める科目	法学(日本国憲法)	2	2	2							■			*星野	必修2単位		
	スポーツ		2	2	2					■				*篠田	選択2単位以上		
	保健体育講義		2	2	2					■				*篠田			
	英語中級Ⅰ	2	2	2	2									◎菅原・*木伏	選択2単位以上		
	英語中級Ⅱ	2	2	2						■				◎菅原・*木伏			
	英語中上級Ⅰ	2	2	2							■			菅原			
	英語中上級Ⅱ	2	2	2							■			菅原			
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅢ	1	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅣ	1	1	1	1							■			バンゴースム		
	英語オーラルコミュニケーションⅤ	1	1	1	1							■			*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅥ	1	1	1	1							■			*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス		
	英語オーラルコミュニケーションⅦ	1	1	1	1							■			*ドライアー・*レイサム		
	英語オーラルコミュニケーションⅧ	1	1	1	1							■			*ドライアー・*レイサム		
美術・工芸コンピュータ基礎演習	2	2	2									■		池永	必修2単位		
計	4	20	4	20	4	20											

注1 = 中美は中学校一種(美術)、高美は高等学校一種(美術)、高工は高等学校一種(工芸)の略
 注2 = 網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。
 注3 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
 注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員（美術・工芸学科2019年度以降入学者）

区分	授業科目	単位数		履修学年								担当教員	資格取得 最低単位数		
		中学校一種 (美術)		高校一種 (美術)		第1学年		第2学年		第3学年				第4学年	
		必修	選択	必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			前期	後期
教科及び教職 に関する科目	基礎造形実習Ⅱ(描写)	2	2			■								(略)	中美:必修42単位 高美:必修38単位
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)	2	2				■							遠藤・◎岡谷・*ミーヨン	
	美術・工芸コンピュータ演習	2	2			■								森本	
	基礎造形実習Ⅱ(造形)	2	2			■								(略)	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(彫刻)	2	2				■							◎小林・長谷川・*新村	
	基礎造形実習Ⅰ(デザイン)	2	2			■								(略)	
	基礎造形実習Ⅱ(デザイン)	2	2			■								(略)	
	美術・工芸・デザイン分析	2	2							■				◎中村・*浅賀・*扇原・*加藤・*日野・*溝川	
	基礎造形実習Ⅱ(素材材)	2	2			■								(略)	
	美術・工芸基礎演習Ⅰ(工芸)	2	2					■						菅野・◎中村・*手銭・*数内	
	美術論	2	2						■					*瀧本	
	日本美術史	2	2			■								*大倉	
	西洋美術史	2	2				■							*瀧本	
	現代芸術論	2	2					■						*大倉	
	美術・工芸概論	2	2				■							遠藤・◎岡谷・菅野・小林・中村・長谷川・馬場	
	美術解剖学	2	2						■					*伊藤(恵)	
	美術・工芸材料学	2	2						■					菅野・菊池・中村・◎長谷川・*秋本・ *井波・*岩崎・*楠八重・*平賀・*森田	
	美術科指導法	8	8							■				市川	
	計	42	38												
	教育の基礎的 理解に関する科目	教職入門	2	2				■							
教育原理		2	2					■						竹田	
教育心理学		2	2					■						*小嶋	
教育制度論		2	2							■				竹田	
教育課程の編成と実際		2	2						■					竹田	
特別支援教育		2	2							■				◎市川・*長澤	
計		12	12												
道徳、総合的 な学習の時間等 の指導法及び生徒 指導、教育相談等 に関する科目	道徳指導法	2	2						■					市川	中美:必修10単位 高美:必修8単位
	総合的な学習の時間及び特別活動指導法	2	2							■				竹田・◎市川	
	教育方法・技術	2	2								■			竹田	
	生徒・進路指導	2	2						■					*伊藤(敦)	
	教育相談	2	2								■			*伊藤(敦)	
	計	10	8												
教育実践に 関する科目	事前・事後指導	1	1										■	市川・◎竹田	中美:必修7単位 高美:必修5単位
	教育実習Ⅰ	2	2										■	市川・◎竹田	
	教育実習Ⅱ	2	2		2								■	市川・◎竹田	
	教職実践演習(中・高)	2	2		2								■	市川・◎竹田	
	計	7	5	2											
合計	71	63	2												
教育職員免許 法施行規則第66条の6に 定める科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	2	2							■				*星野	必修2単位 選択2単位以上 選択2単位以上 必修2単位
	法学(日本国憲法)	2	2							■				*星野	
	スポーツ	2	2						■					*篠田	
	保健体育講義	2	2						■					*篠田	
	英語中級Ⅰ	2	2						■					◎菅原・*木伏	
	英語中級Ⅱ	2	2						■					◎菅原・*木伏	
	英語中上級Ⅰ	2	2						■					菅原	
	英語中上級Ⅱ	2	2						■					菅原	
	英語オーラルコミュニケーションⅠ	1	1						■					バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅡ	1	1						■					バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅢ	1	1						■					バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅣ	1	1						■					バンゴースム	
	英語オーラルコミュニケーションⅤ	1	1						■					*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス	
	英語オーラルコミュニケーションⅥ	1	1						■					*エドワーズ・*ドライアー・*ムリノス	
	英語オーラルコミュニケーションⅦ	1	1						■					*ドライアー・*レイサム	
英語オーラルコミュニケーションⅧ	1	1						■					*ドライアー・*レイサム		
美術・工芸コンピュータ基礎演習	2	2							■				池永		
計	4	20	4	20											

注1 = 中美は中学校一種(美術)、高美は高等学校一種(美術)の略
 注2 = 網掛けした科目は、教職課程受講者のみが履修する科目。
 注3 = ◎印は科目の代表教員、*印は非常勤講師
 注4 = ■印は標準的な履修学年・学期を表す。■印以降の学年・学期にて履修することができる。

4-3 進級要件・卒業要件（2018年度以降入学者）

【プロダクトデザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「プロダクトデザイン基礎実習Ⅰ」（1科目4単位）及び「プロダクトデザイン基礎実習Ⅱ（A）・（B）」のうち、どちらか1科目（4単位）の、計2科目8単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	4	4	
	言語系	選択必修	20		4
		選択	32		14
小計				4	18
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		35
	学科共通	必修	23	23	
		選択必修	8		4
		選択	14		8
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
卒業研究	必修	6	6		
小計				55	47
合計				59	65
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計35単位を修得する必要がある。

【視覚デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）・（複合造形）」及び「基礎造形実習Ⅱ（描写）・（造形）・（素形材）・（デザイン）」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「視覚デザイン基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（2科目8単位）及び区分「選択必修①」から1科目（4単位）、区分「選択必修②」から1科目（4単位）の、計4科目16単位を修得していること。
4年次進級要件	3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱの2科目8単位を修得していること。

●卒業要件

区分			1～4学年開講単位数	卒業要件単位数		
				必修	選択	
教養科目	キャリアデザイン	必修	4	4		
	言語系	選択必修	20		4	
		選択	32		14	
小計				4	18	
専門教育科目	学部共通	必修	14	14		
		選択	88		29	
	学科共通	必修	29	29		
		選択	選択必修①	12		4
			選択必修②	16		4
			選択①、②を除く	8		
	コース別演習	必修	8	8		
ゼミ	必修	4	4			
卒業研究	必修	6	6			
小計				61	41	
合計				65	59	
合計					124	

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計29単位を修得する必要がある。

※学科共通選択科目は、選択必修①、②からそれぞれ4単位以上、またその他の選択科目を合わせ合計12単位以上を修得する必要がある。

【美術・工芸学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「美術・工芸基礎演習Ⅰ(絵画)・(彫刻)・(工芸)・(複合)」及び「美術・工芸基礎演習Ⅱ」の5科目16単位を修得していること。
4年次進級要件	「3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」及び「ゼミⅠ・Ⅱ」の4科目12単位を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	4	4	
	言語系	選択必修	20		4
		選択	32		12
小計				4	16
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		27
	学科共通	必修	35	35	
		選択	22		10
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
卒業研究	必修	6	6		
小計				67	37
				71	53
合計					124

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計27単位を修得する必要がある。

【建築・環境デザイン学科】

●進級要件

学年	進級要件
2年次進級要件	「基礎造形実習Ⅰ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)・(複合造形)」及び「基礎造形実習Ⅱ(描写)・(造形)・(素形材)・(デザイン)」の9科目18単位をすべて修得していること。
3年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3科目のうちから2科目8単位以上を修得していること。
4年次進級要件	「建築・環境デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」および「3年次のコース別演習Ⅰ・Ⅱ」の5科目20単位のうちから、4科目16単位以上を修得していること。

●卒業要件

区分			第1～4学年開講単位数	卒業要件単位数	
				必修	選択
教養科目	キャリアデザイン	必修	4	4	
	言語系	選択必修	20		4
		選択	32		10
小計				4	14
専門教育科目	学部共通	必修	14	14	
		選択	88		16
	学科共通	必修	45	45	
		選択	28		16
	コース別演習	必修	8	8	
	ゼミ	必修	4	4	
卒業研究	必修	6	6		
小計				77	32
				81	46
合計					127

※学部共通選択科目は、第1、第2、第3区分から各2科目以上、第4区分から1科目以上、合計16単位を修得する必要がある。

5 授業について

5-1 授業期間および授業時間

学年・学期	学年		学期	
	4月1日 - 3月31日	前期	後期	4月1日 - 9月30日 10月1日 - 3月31日

授業開始日は毎年変更します。また、後期授業は、学則第13条に則り9月下旬より開始します。1年間の学事は、キャンパスガイドのカレンダー、またはパレットのサイドメニューから確認してください。

授業期間

1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則としています。

授業時間

授業は1時限90分で行われ、授業時間は次のとおりです。

時限	授業時間
1時限	9:00 — 10:30
2時限	10:40 — 12:10
3時限	13:00 — 14:30
4時限	14:40 — 16:10
5時限	16:20 — 17:50

5-2 単位の修得

大学における教育課程の学修は、単位制によって行われ、すべての授業科目に一定の単位数が定められています。これは、学生自らが目標を設定し、それを実現するための多様な学習を可能にするためです。

自分自身で受講したい授業科目を選択し履修計画を立て、卒業に必要な単位を満たす必要があります。（大学は、124単位以上を修得することが法令で定められています）

単位数の計算

本学では、授業の方法や形態によって、原則として次のような基準で単位数が算定されています。

講義	1 授業時間(90分) × 15回をもって2単位とする
演習	1 授業時間(90分) × 15回をもって2単位とする
実習	1 授業時間(90分) × 15回をもって1単位とする

※本学の授業は、通年科目30回、前期科目15回、後期科目15回で構成しています。

※単位数が2倍になると、授業回数も比例し2倍になります。

(例 演習4単位 = 1 授業時間 × 30回)

※1単位は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として法令に定められています。45時間の学修には、大学での授業時間のほかに、授業外に学生が自主的に行う自主学習(予習・復習等)時間も含まれています。

1 授業の基本単位数		2 単位 90時間		
大学設置基準の規定		1 単位 = 45時間		1 単位 = 45時間
授業方法	講義・演習	授業前学習	授業(本学学修) 90分 × 15週	授業後学習
	実習	授業前学習	授業(本学学修) 90分 × 30週	授業後学習

単位の認定

授業科目を履修し、各科目で定められている成績評価基準により合格した場合に単位が与えられます。

5-3 休講・補講・集中講義

休講

災害、天候、その他の理由による臨時の休講や教員の都合により、特定の授業科目の休講を行うことがあります。

補講

教員の都合による休講に対しては、その学期末の補講期間に原則補講を行います。補講期間中は、通常的时间割の曜日時限に関わらず補講が入ります。

集中講義

教員の都合等により、授業時間割を離れて集中して授業を行う場合があります。

授業の実施、休講、補講、試験等、修学に関するすべての連絡は、学生用ポータルサイト“パレット”により行います。パレットは毎日チェックし、連絡事項を見落とさないように注意してください。(メール転送することをお勧めします)

また、公共交通機関が運休、遅延した場合は、当該交通機関の発行する証明書(運休証明書等)を授業担当教員に提出してください。詳細はキャンパスガイドを参照してください。

5-4 出席の基準

原則として授業開始までは「出席」、授業開始後20分までは「遅刻」、20分以降は「欠席」の扱いになります。遅刻は授業の進行を妨げ、受講者全員に対しての迷惑となります。授業を受けるにあたっては時間厳守を心がけてください。また科目によって取り扱いが異なる場合は、授業科目の概要(シラバス)の「出席・遅刻の基準」に掲載してあります。



▲
授業開始10分前から
カードリーダーで
出席登録できます

5-5 出席のとり方

点呼や学生証（ICカード）を専用機械（カードリーダー）により読み取る（出席登録）など授業や担当教員によって出席のとり方は異なります。出席状況はパレットにて、都度確認することができます。

カードリーダーによる出席登録で学生証を忘れた場合、授業開始前に教務課で「学生証不携帯者用出席用紙」を発行します（当日限り有効、1科目1枚）。授業前に教務課で手続きを行い、授業開始時に必ずその出席用紙を教員に渡してください。

近年、学生証忘れが多発しており、状況が変わらない場合には、対応できなくなる可能性もありますので注意してください。

出席に関する不正行為

(1) 出席に関する不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は出席に関する不正行為とみなします。

- ・他の学生に成り代わり出席または代返を行うこと
- ・上の行為を依頼すること
- ・出席の手続きを行ったにもかかわらず、授業を受けないまたは無断で途中退室すること

(2) 出席に関する不正行為に対する処分

出席に関する不正行為が確認された場合には、当該科目を原則不合格とします。また学長が特に悪質と見なす場合は当該期に履修したすべての科目を不合格とします。併せて、出席に関する不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

(3) 出席についての注意事項

- ・本学では授業前にカードリーダーで出席を登録する際は、担当教員が指示する場合を除き、授業終了までのすべての時間に対して受講することを前提としています。
- ・万一、授業中に受講を中断し、退室する場合には、担当教員に申し伝える必要があります。（無断退室とみなされる場合には、担当教員が出席に関する不正行為と判断します）担当教員に直接伝えられない場合は、退室後すぐに事務局に申し伝えてください。
- ・突発的な体調不良により退室しなければならない場合は、適切な処置につなげるため医務室を利用してください。

5-6 出席状況調査

出席状況を把握し、不良者について履修指導を行うため、継続的に授業の出席状況について調査を行います。

出席不良の条件（原則として、2週連続で欠席した場合）に該当した学生には、パレットで通知します。事務局や教員から呼び出しがあった場合は速やかに応じるようにしてください。なお、呼び出しに応じない場合は、保証人に状況等を連絡します。

また、出席に関する不正行為を防止するため、授業内で調査を行うことがあります。時期や方法は担当教員の判断によりますので、留意してください。

出席状況は、パレットの「授業出欠」からいつでも確認することができます。出欠状況が事実と異なる場合等があれば、出席を証明できる資料とともに速やかに担当教員に申し出てください。

5-7 欠席

欠席には次のような種類があります。届出が必要な場合もありますので注意してください。

公欠（出席扱いとなる欠席）

忌引、天災、学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症、博物館実習、介護等体験実習、教育実習及びその他学長が必要と認める場合の理由で欠席する場合、公欠届を提出することにより、原則として出席扱いとなります。以下の取扱い基準を確認のうえ、届出をしてください。

（基準）

事由	基準	添付書類	
(1)忌引	死亡した日または通夜の日から起算して、 連続した日数(非授業日含む)の範囲内 (ただし、移動日を含む)	会葬案内など事実が 確認できる書類	
	父母		7日
	祖父母		3日
	兄弟姉妹		3日
	おじ又はおば		1日
	曾祖父母		1日
	上記以外		教務課にて確認が必要
(2)天災	地震・台風・洪水など自然現象によってもたらされる災害	自治体発行の証明書等	
(3)感染症	学校保健安全法施行規則第18条に規定された感染症 期間:治療のために必要な日数	学校感染症治療証明書 または保健所・医療機 関等発行の証明書	
	第一種感染症		エボラ出血熱、ジフテリア、ペスト、SARS、特定鳥 インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などの 重篤なもの
	第二種感染症		インフルエンザ、百日咳、麻疹、水痘、風疹、流行性 耳下腺炎、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
	第三種感染症		コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チ フス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜 炎、その他の感染症(感染性胃腸炎など)
(4)博物館実習	館内実習のうち実習館での実習にかかる期間(学芸員課程履修者のみ) 5日間以上	不要	
(5)介護等体 験実習	介護等体験にかかる期間(教職課程履修者のみ) 特別支援学校2日間、社会福祉施設等で5日間、合計7日間	不要	
(6)教育実習	中学校または高等学校での教育実習にかかる期間(教職課程履修者のみ) 3週間	不要	
(7)その他学長 が必要と認 める場合	①本人の過失によら ない傷病に伴い、授 業を欠席しなければ ならない場合	本人又は教職員から状況のわかる資料の提示のうえ、 総合的な状況を踏まえ学長が判断する。 期間:通院・入院等に必要な日数	医療機関等発行の証 明書
	②裁判員として裁判 所に呼び出され、授 業を欠席しなければ ならない場合	状況を確認の上、学長が判断する 期間:必要な日数	裁判員の呼出状及び 裁判所に出頭したこ と証明する書類
	③本学から公式に学事 等への参加などを要 請し、授業を欠席し なければならない場 合	[表彰式等への出席] コンペティション等の受賞により、表彰式等に招聘 され、直接表彰される場合、関連する教員からの推 薦のもと、受賞内容、当該者のキャリアアップ及び 本学の広報効果を考慮し、学長が取り扱いを判断す る。その場合、当該者に本学ホームページや広報物 への掲載など広報への協力を要請する。 期間:表彰式に出席する日(ただし、移動日は対象としない)	表彰式等の案内書類、 表彰時の写真等
	④その他、不測の事態により、公欠と判断をせざるを得ない場合		

※ 就職活動・インターンシップは公欠にはなりません。

公欠届の提出により、事務局から、認められた期間の授業の担当教員に公欠理由を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、補習や課題等の実施については各授業の担当教員が判断します。

公欠以外

2週間未満の 欠席

各担当教員に学生本人から直接欠席理由を伝え、補習・課題等の指示を受けてください。書類による届出の必要はありません。

2週間以上の 欠席

欠席届を提出してください。疾病やけがによる場合は医師の診断書が必要になります。

欠席届の提出により、事務局から、欠席期間の授業の担当教員に理由を伝えますが、学生本人からも必ず担当教員に欠席理由を伝えてください。なお、出席点の取扱いや補習、課題等の実施については、欠席の理由により各授業の担当教員が判断します。

どの場合の欠席についても、補習・課題等の指示については、学生本人が直接担当教員より受けてください。また、試験日に病気や災害などの正当な理由で欠席する場合は、追試験を受験できる可能性があります。詳しくは、「7-1 試験の種類」(74ページ)を参照して下さい。

6 履修の手引き

6-1 履修登録

大学の教育は、学生がそれぞれの目的に基づき、主体的に学ぶことを基本としています。授業を受けるためには、学生自身で履修登録を行う必要があります。履修登録の手続きをしないと授業を受けることができません。履修登録および履修登録内容の確認は、本履修ガイドをよく読み、所定の期間内に自己の責任において行ってください。

なお、各学期の履修登録前に履修ガイダンスを実施しますので、必ず出席してください。

6-2 履修登録の時期

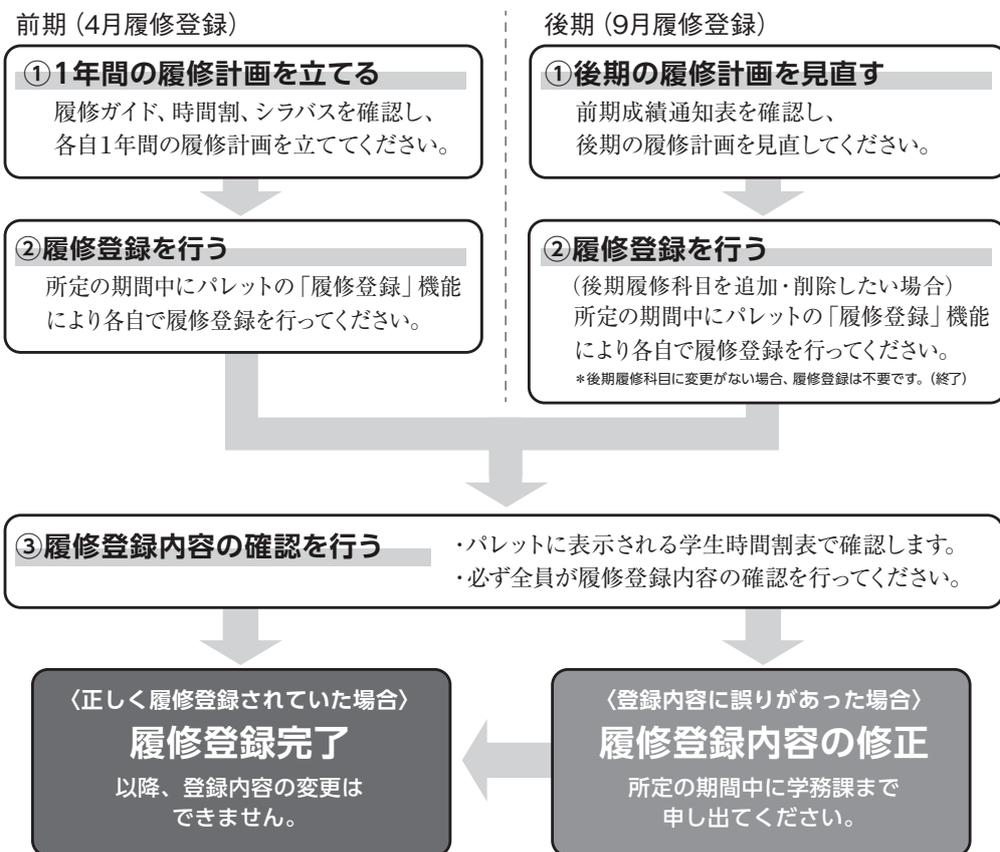
履修登録は年2回、4月および9月に行います。

4月…【全員が行います】 1年間の履修計画を立て当該年度に履修する全ての通年、前期、後期科目の登録を行います。

9月…【希望者だけ行います】 前期に登録した後期科目を変更する場合にのみ行います。前期の成績に応じて、履修科目の取消や追加ができます。

6-3 履修登録の流れ

■履修登録の流れ



6-4 履修登録時の注意事項

1. 開講科目、履修学年を理解する

「授業科目・単位数・担当教員」の表の見方（22/42ページ）

必修科目…卒業までに必ず全科目修得しなくてはならない授業科目
 選択科目…卒業までに、卒業要件で定める単位数以上を修得しなければならない授業科目

履修を開始する学年、開講期に■印が書いてあります。■印以上の学年で履修することができます。

区分	授業科目	単位数	履修開始可能学年・学期								担当教員	卒業資格最低単位数	
			第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
教養	スポーツ	○	2		■							*篠田	選択10~14単位 (学科により異なる)
	保健体育講義	○	2	■								*篠田	
	社会心理学	○	2			■						◎天野(美)・*大野	
	日本文化論	○	2				■					◎*岡本・*黒川・*薩摩・*芹生	
	美術論	○	2					■				*瀧本	
	環境と社会	○	2						■			*水流	

区分ごとに、卒業までに修得しなくてはならない単位数を記載しています。

履修開始可能学年・学期について

全ての科目に「履修学年」が設定されています。

これは、設定した学年（■印）以上の学年であれば、履修が可能という意味です。

例えば、履修学年が1学年前期と設定されている科目は、2学年～4学年の前期にも履修を行なうことができます。

しかし、履修学年が3学年後期と設定されている科目の場合は、3学年後期及び4学年後期に履修することができますが、1学年後期や2学年後期には履修することができません。

また、一度単位を修得した科目については、再度履修登録をすることができません。担当教員の許可を得た場合は、授業を聴講することはできますが、その場合の単位は与えられません。単位が与えられなかった科目については、再度履修登録を行い、単位修得を目指すことが可能です。

2. 時間割を確認する

- ・同一の学期・曜日・時限においては、1科目しか登録できません。（重複履修（67ページ）が認められる場合は除きます）2時限続きの科目もありますので、時間割が重複しないよう注意してください。
- ・科目名の次に小文字のアルファベット（a,b等）がついているものは、複数クラス開講する授業です。
- ・科目ごとに授業の進行や実施時期に特別な対応が必要な場合（土曜日の開講など）は、履修ガイダンス時に説明をしますので、必ず確認をしてください。

3. 履修したい科目内容を確認する

- ・パレットに掲載のシラバスには各科目の授業計画や成績評価基準、授業にあたって必要な内容等が載っています。履修登録の前に授業内容をよく確認してください。シラバスは、パレットにていつでも確認することができます。

シラバスを見るうえでのポイント

科目名	緑地環境設計		
学年	2	開講期	後期
必修/選択	選択	授業形態	講義
単位数	2		
担当教員	小川総一郎		
授業の概要及びテーマ	<p>緑地環境計画やランドスケープデザインで意図した空間デザインを具体化するた とが必要である。</p> <p>本授業では、前期「緑地環境計画」で修得したランドスケープ計画の基礎技術を 各回の講義で学んだことを課題に反映して最終成果につなげる。一連のデザイン で、空間を総合的にデザインすることを体験する。</p> <p>また、設計における過程で考慮すべき事項や空間を構成する諸要素（材料、植栽、 物、設備など）の技術的な知識や取り扱いについての理解を深める。</p>		
達成目標	<p>ランドスケープの基礎的な図面を描くことができる。</p> <p>ランドスケープ設計に必要な材料を適切に使い分けることができる。</p> <p>特定視点場から正確なスケッチを描くことができる。</p>		
学位授与方針（ディ プロマポリシー）との関 連	社会人基礎力/構想力/造形力を養う授業		
授業計画	<p>01 ガイダンス：最終課題説明</p> <p>02 樹木設計</p> <p>03 空間構成感覚</p> <p>04 現地調査：最終課題のサイト調査1</p> <p>05 現地調査：最終課題のサイト調査2</p> <p>06 透明水彩：ランドスケープの透視図を描くための基礎的技法</p> <p>07 透明水彩：演習課題またはキャンパスを題材（集中講義1）</p> <p>08 透明水彩による透視図（集中講義2）</p> <p>09 透明水彩による透視図（集中講義3）</p> <p>10 植栽設計</p> <p>11 道路設計</p> <p>12 造成排水設計</p> <p>13 水辺空間の設計</p> <p>14 総復習</p> <p>15 プレゼン</p>		
成績評価基準	<p>演習課題ではないのでデザインで評価せず、小課題が最終成果に反映されている 備する。</p> <p>定期的な小課題：未提出の場合減点</p> <p>最終成果課題 100%</p> <p>最低出席回数10回、遅刻は出席回数に含めません</p> <p>出席10回未満は採点の対象外とします。</p>		
出席・遅刻の基準	履修ガイドのとおり		
テキスト（教科書）	エコロジカル・ランドスケープというデザイン手法 小川総一郎 理工図書 4,2 別)		
参考書・参考資料等	庭木と緑化樹1,2 飯島亮 誠文堂新光社 住まいの樹木図鑑 住友林業緑化		
用具	スケッチブックなど、ガイダンス時に説明します。		
履修制限等			
履修希望者への要望・ 事前準備	前期の「緑地環境計画」を履修していることが望ましい。		
実務経験を活かした授 業	建設会社及びコンサルタンツで実績のある教員がランドスケープの計画設計施工 する。		

「達成目標」は、この授業で達成すべき目標内容です。常に意識しながら、授業に取り組んでください。

学位授与方針に掲げる3つの力のうち、当該科目の修得により身につく力を示しています。

各回の授業予定を示しています。授業内容を確認し、予習・復習に役立ててください。16回目に試験を実施することもあります。

達成目標に対する成績評価の基準を示しています。大まかな割り振りを示す%表示や評価軸を示しています。

「テキスト」は、授業で必要なものですから各自用意してください。購入が必要な場合は注意してください。

「参考書、参考資料等」は、授業で必ず必要なものではありませんが理解を深めるために役立つ資料です。

履修を進めるうえでの心構えや事前に準備してほしいこと、自主学習の方法などについて示しています。

授業を担当する教員の実務経験がある場合に、授業にどのように活かされるのかを示しています。

当該科目を履修するための条件がある場合に、条件を示しています。進級に関わることもありますので必ず確認してください。

4. CAP制について

履修登録単位数の上限（原則として各期24単位、年間48単位）を設定する制度をCAP制と呼びます。

CAP制は、無理のない履修計画を立てることで、各授業における予習・復習・制作等の時間を確保し、学生各自の授業内容の理解や知識・技術の修得を十分に実のあるものとするを目的とした制度です。

履修登録できる単位数の上限は、GPAと連動しています。各期（前期・後期とも）に履修登録できる単位数の上限は、以下の通りです。

履修登録する期の1つ前の期 ^(*) のGPA	各期の履修登録の上限単位数
2.0未満の者	24単位
2.0以上の者	30単位

(* = 前期の履修登録の場合は前年度の後期、後期の履修登録の場合は当年度の前期)

※入学初年次、休学等により履修登録する期の1つ前の期のGPAが無い学生は、上限単位数を一律24単位とする。

※集中講義および学芸員課程・教職課程の専門科目（通常の課程に含まれない科目）については、上限の単位数には含めない。

※編入学試験により入学した者は、CAP制を適用しない。

5. 進級要件を確認する

“進級要件”とは、進級するために最低限満たさなくてはならない条件です。学年・学科ごとに、進級要件の内容が異なります。進級要件が満たせない場合は留年となります。詳しくは「3-3または4-3 進級要件・卒業要件」（30/51ページ）を参照して下さい。

6. 卒業要件を確認する

“卒業要件”とは、卒業するために最低限満たさなければならない条件です。大学を卒業するためには、4年以上在学し、卒業要件を満たす必要があります。卒業した者には、「学士(造形)」の学位が授与されます。（卒業要件については、「3-3または4-3 進級要件・卒業要件」（30/51ページ）を参照して下さい。）

7. 単位を修得するペース配分

4年間で卒業要件を満たすためには、各学年においておおよそ以下のペースで単位を修得するのが理想的です。上級学年では、専門性の高い授業となり、さらに就職活動や卒業研究などで多忙となります。1年生のうちから計画的に履修してください。

学年	前期	後期	累計
1	20～24単位	20～30単位	40単位以上
2	20～30単位	20～30単位	80単位以上
3	14～20単位	14～20単位	110単位以上
4	卒業研究+数科目程度		124～128単位以上

6-5 パレットによる履修登録の方法

1. 履修登録期間に実施すること

〔前期〕

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。

②科目を登録します。予め記入した履修計画表や時間割を確認しながら登録しましょう。

登録する科目の曜日・時限の **選択** ボタンをクリックします。

※登録した単位数の合計は画面右上に表示されます。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	<input type="checkbox"/> b302a 基礎造形実習Ⅱ(描写)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b303a 基礎造形実習Ⅱ(造形)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b304a 基礎造形実習Ⅱ(彫形材)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b305a 基礎造形実習Ⅱ(デザイン)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b306a 基礎造形実習Ⅱ(デザイン)プロダクト【藤 和彦】	
2	<input type="checkbox"/> b302a 基礎造形実習Ⅱ(描写)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b303a 基礎造形実習Ⅱ(造形)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b304a 基礎造形実習Ⅱ(彫形材)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b305a 基礎造形実習Ⅱ(デザイン)プロダクト【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b306a 基礎造形実習Ⅱ(デザイン)プロダクト【藤 和彦】	
3	<input type="checkbox"/> b321 プロダクトスケッチ実習Ⅰ【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b306 プロダクトコンピュータ実習【金澤 孝和】	<input type="checkbox"/> b102 保健体育講義【田 浩子】	<input type="checkbox"/> b130b 英語オーラルコミュニケーションⅣ【バ>ン ゴーサム】	<input type="checkbox"/> b207 色彩学【三井 直樹】	
4	<input type="checkbox"/> b321 プロダクトスケッチ実習Ⅰ【藤 和彦】	<input type="checkbox"/> b243 人間工学【三村 宣治】	<input type="checkbox"/> b102 保健体育講義【田 浩子】	<input type="checkbox"/> b130b 英語オーラルコミュニケーションⅣ【バ>ン ゴーサム】	<input type="checkbox"/> b207 色彩学【三井 直樹】	
5	<input type="checkbox"/> b147 情報リテラシー【増田 秀珠】	<input type="checkbox"/> b140 基礎ITミ【金山 正壽】	<input type="checkbox"/> b224 美術・工芸概論【藤谷川 京雄】	<input type="checkbox"/> b130b 英語オーラルコミュニケーションⅣ【バ>ン ゴーサム】	<input type="checkbox"/> b207 色彩学【三井 直樹】	

別画面が出ますので、登録する科目にチェックをつけ、**確定** ボタンをクリックします。

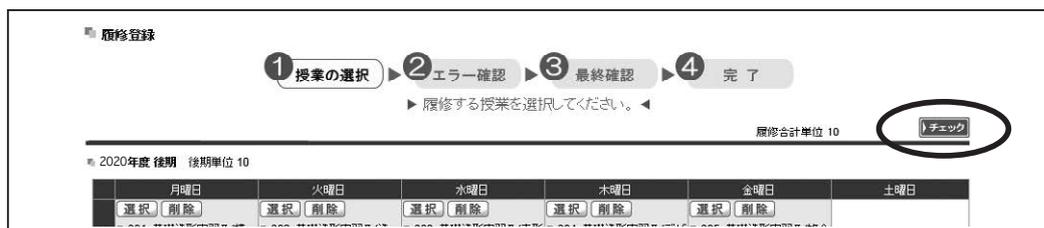
授業コード	科目名	単位
<input checked="" type="checkbox"/> 113	英語Ⅱe	2
<input type="checkbox"/> 130	英語Ⅳf	2
<input type="checkbox"/> 310	コンピュータ基礎演習Ⅱe	1
<input type="checkbox"/> 311	プロダクトデザイン概論	2

- ③登録した科目が表示されますので、同様にして1科目ずつ登録します。
 登録を取り消したい場合は、**削除** ボタンをクリックしてください。
 ※パレットの画面は、上段が前期、下段が後期になっています。
 ※後期科目の履修登録を忘れないように注意してください。

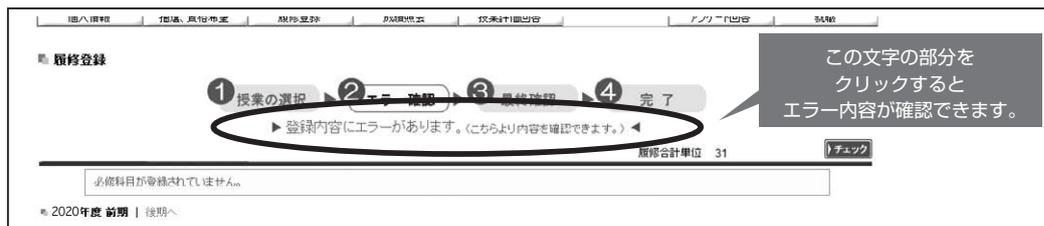
■ 2020年度 後期 後期単位 27

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択 削除 b302a 基礎造形実習 II (描写)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b303a 基礎造形実習 II (造形)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b304a 基礎造形実習 II (彫形)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b305a 基礎造形実習 II (デザイン)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b305a 基礎造形実習 II (デザイン)プロダクト 【藤 和彦】 選回	
2	選択 削除 b302a 基礎造形実習 II (描写)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b303a 基礎造形実習 II (造形)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b304a 基礎造形実習 II (彫形)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b305a 基礎造形実習 II (デザイン)プロダクト 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b305a 基礎造形実習 II (デザイン)プロダクト 【藤 和彦】 選回	
3	選択 削除 b321 プロダクトスケッチ実習 I 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b306 プロダクトコンピュータ演習 【金澤 幸和】	選択 削除 b102 保健体育講義 【篠田 浩子】	選択 削除 b130b 英語オーラルコミュニケーションIVb 【バン ゴーサム】	選択 削除 b207 色彩学 【三井 直樹】	
4	選択 削除 b321 プロダクトスケッチ実習 I 【藤 和彦】 選回	選択 削除 b243 人間工学 【三村 宣治】	選択	選択	選択 削除 b223 形態デザイン論 【三井 直樹】	
5	選択 削除 b147 情報リテラシー	選択 削除 b140 基礎ゼミ 【金山】	選択 削除 b224 美術・工芸概論	選択	選択	

- ④すべての科目の登録が終了しましたら、登録画面の右上にある**チェック** ボタンをクリックします。
 「チェックを開始してよろしいですか」との表示が出たら、「OK」をクリックします。
 ※登録を途中で中断する場合は、**チェック** ボタンをクリックしておくとし、後でこの続きから登録することができます。



登録内容にエラーがある場合、「登録内容にエラーがあります」というメッセージが出ます。



エラー内容が別画面で表示されるので確認し、エラーメッセージ (P.64参照) を参考に、登録の修正を行います。

※履修登録画面には、正しく登録された科目の背景はグレー、エラーとなった科目はピンク色で表示されます。

※エラーが消えない場合、理由が分からない場合は教務課まで相談に来てください。エラーが全て消えるまで修正を行い、再度 **チェック** ボタンを押してエラーがないかチェックします。

■ 基本、条件エラー

授業コード	科目名	単位	アクレジット
544	社会学 (医寄)	2	修得済科目を履修しています。
545	国際社会論 (医寄)	2	修得済科目を履修しています。
551	美術論 (医寄)	2	修得済科目を履修しています。
571	コンピュータ基礎演習 I b (医寄)	2	修得済科目を履修しています。

■ 制限エラー

制限エラーはありません。

【参考：エラーチェック時のメッセージ】

エラーメッセージの一例	原因	対応
必修科目が登録されていません。	必修科目が登録されていない、または登録が不足しています。	不足している必修科目を登録してください。
同一学期（年度）内に、同一の授業を複数履修しています。	「スポーツ」「デザイン概論」などの複数クラス開講科目は1クラスずつしか履修登録できません。	履修クラスを1つ決め、それ以外のクラスは削除してください。
修得済科目を履修しています。	既に単位を修得した科目は履修登録できません。	選択した科目を削除してください。
〇〇〇を履修するためには●●●の修得が必要です。	特定の科目において、履修するためには別の科目の修得か履修登録が条件となっている科目があります。	不足している科目を追加してください。
同一時限に複数の授業を履修しています。	同一の時限には1つの科目しか履修登録できません。	登録しない科目を削除してください。
履修登録単位数の上限は●単位です	履修登録単位数の上限があります。（CAP制）	履修上限の範囲内となるように履修登録してください。

⑤すべてのエラーが消えると、最終確認画面となりますので、**確定** ボタンをクリックし、登録を完了してください。

※登録画面に戻りたい場合は、**授業の選択へ戻る** ボタンをクリックしてください。



⑥次に、1～3年生は「進級見込判定」、4年生は「卒業見込判定」をするため、「成績関連」→「進級/卒業見込判定」をクリックします。



ここで「進級条件を満たしています」または「卒業条件を満たしています」という表示が出ていれば登録完了です。

※要件を満たしていない場合は、要件を満たすよう履修登録を見直してください。



●履修登録のやり直しについて

- ・履修登録期間中は、一度登録を完了していたとしても、修正が可能です。また、途中で登録画面に戻りたい場合は、**授業の選択へ戻る** ボタンをクリックしてください。
 - ・登録を変更した場合には、必ず **チェック** ボタンおよび **確定** ボタンをクリックしてください。
- ※この操作を行わない場合、登録の変更が反映されませんので注意してください。

【後期】

①上部メニューより「履修登録」をクリックします。

後期の「履修登録」画面が表示され、すでに前期に登録した科目が表示されます。



②前期に履修登録した内容に変更がある場合には、登録の追加や削除を行ってください。

【科目を追加したい場合】

追加したい科目の曜日・時限の欄で **選択** をクリックし、追加したい科目にチェックをつけ、**確定** をクリックしてください。

※追加操作後、履修登録画面に、追加した科目が表示されているか確認してください。



【登録済の科目を削除したい場合】

削除したい科目の曜日・時限の欄で **削除** をクリックしてください。

※必修科目は削除しないように注意してください。

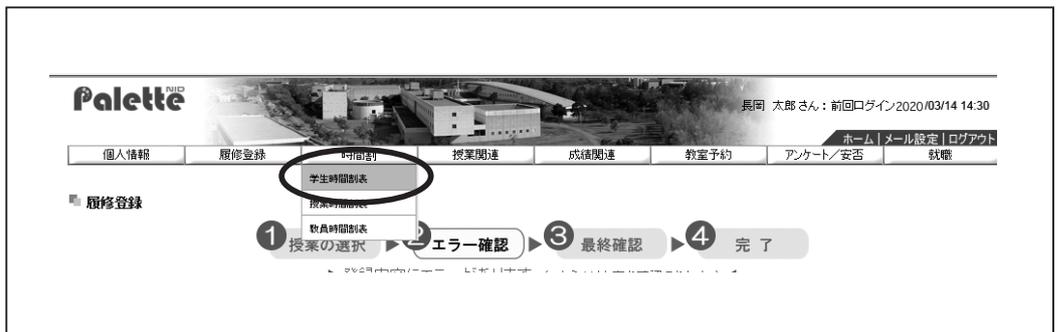
●以降、P.62 1. 履修登録期間に実施すること〔前期〕④～⑥の操作を行ってください。

2. 履修登録期間終了後に実施すること（前期・後期共通）

履修登録受付期間終了後、入力した科目がきちんと履修登録されたかどうかについては、以下の手順によりパレット上で必ず学生時間割表を確認してください。

※学生時間割表の確認は、予め決められた期間内に実施してください。確認期間から遅れて申し出た場合には対応できませんので、各自の責任で行ってください。

①上部メニューより「時間割」→「学生時間割表」をクリックします。



②万一、登録内容に誤りがあった場合は、学生時間割表の画面を印刷し、赤で修正を入れて、期限までに教務課に提出してください。

開講年度 2020 学期 後期 表示形式 カレンダー表示

検索 印刷 画面下へ

2020年度 後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	b302a 基礎造形実習Ⅱ (描写)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b303a 基礎造形実習Ⅱ (造形)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b304a 基礎造形実習Ⅱ (美形材)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b305a 基礎造形実習Ⅱ (デザイン)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b305a 基礎造形実習Ⅱ (デザイン)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	
2	b302a 基礎造形実習Ⅱ (描写)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b303a 基礎造形実習Ⅱ (造形)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b304a 基礎造形実習Ⅱ (美形材)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b305a 基礎造形実習Ⅱ (デザイン)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	b305a 基礎造形実習Ⅱ (デザイン)プロダクト【齋藤 和彦】 戻る	
3	b321 プロダクトスケッチ実習Ⅰ【齋藤 和彦】 戻る	b306 プロダクトコンピュータ演習【金澤 孝和】	b102 保健体育講義【藤田 浩子】	b130b 英語オーラルコミュニケーションⅣ b U(ン コーサル)	b207 色彩学【三井 直樹】	
4	b321 プロダクトスケッチ実習Ⅰ【齋藤 和彦】 戻る	b243 人間工学【三村 宣治】			b223 形態デザイン論【三井 直樹】	

6-6 再履修と継続履修

再履修

再履修とは、不合格となった授業科目を次年度以降に再び履修することをいいます。再履修する場合には、改めて履修登録が必要です。

なお、再履修科目が他の履修科目と時間割が重複するときは、〔重複履修の注意〕に記載の条件を満たした場合に限り、重複履修ができます。教務課で「重複履修科目登録票」を受け取り、再履修科目担当教員の許可を受けて履修登録期間内に教務課に提出してください。

〔重複履修の注意〕

- ・重複履修は、原則として必修科目どうしの組み合わせに限ります。

再履修 \ 正規履修	必修科目	選択科目
必修科目	○	×
選択科目	×	×

※科目の性格上開講学年に履修しなくてはならない選択科目がある場合には、開講学年で履修する場合のみ、「指定科目」として必修科目を再履修科目とする重複が認められることがあります。

- ・進級・卒業要件のない学年の重複履修も認められます。
- ・重複履修が可能な科目であっても、再履修科目の担当教員が許可しない場合は、重複履修が認められません。
- ・重複履修が認められた場合は、各自担当教員と連絡を取り合い履修計画を立ててください。
- ・卒業研究Ⅰ・Ⅱは前期にⅠが修得できなかった場合は、後期に再度Ⅰを、次年度前期にⅡを履修することになります。後期にⅡを修得できなかった場合は、次年度前期に再度Ⅱを履修します。

継続履修

継続履修とは、通年科目の前期授業を履修した後、休学・留学期間をはさみ、所定の手続きを経て次年度以降の後期に同一科目を履修した場合、通年で履修したとみなすことをいいます。

※ただし、開講する授業科目、担当教員、授業内容などの変更により、継続履修できない場合があります。

(例)

本年度			次年度		
4月	9月	3月	4月	9月	3月
「A科目」前期履修	休学		休学	「A科目」後期履修	

6-7 在学年限

在学年限は、修業年限の2倍の年数(8年間)を超えることができません。ただし、この場合の在学期間には、休学期間は含みません。

なお、休学期間は通算して4年を超えることはできません。〔学則第16条、第37条〕

6-8 卒業見込証明書

第4学年の履修登録後、第3学年までの修得単位と第4学年の履修登録単位の合計が卒業要件を満たしている者に対して卒業見込証明書を発行します。

詳細は、キャンパスガイド『各種手続き・証明書の発行』を確認してください。

6-9 学芸員課程の履修

本学では、全学科の学生（3年生以上）を対象に学芸員資格を取得できる学芸員課程を設けています。

学芸員について

博物館（美術館、民俗歴史資料館、科学館等を含む）での資料の収集、整理や保管をはじめとして、企画展示を行う際の企画から立案、開催に向けてのさまざまな活動（案内書、目録、ポスター類の作成・監修等）、さらに年報、報告書の作成、展示・資料に関する調査研究などを担う専門職として位置づけられており、博物館には必ず学芸員をおくことが義務づけられています。本学では資格取得のための学芸員課程を設置しています。

募集人数

35名とします。

募集人数を超える応募者があった場合は、15名を上限に建築・環境デザイン学科環境計画・保存コースの学生を優先しますが、第2学年までの修得単位数が67単位以上であることを優先の条件とします。その他のコースは第2学年までの成績をもとに選考します。

履修方法

① 学芸員課程を受講し、学芸員の資格取得を希望する者は、第3学年の履修登録時に「学芸員課程受講届」を教務課へ提出し、履修が認められた後、指定した日時までに学芸員課程受講料を納入してください。

ただし、この手続きは第3学年の年度初めの定められた期間に限ります。

② 必修科目10科目21単位、選択科目3科目以上6単位以上を修得しなければなりません。（履修科目参照）

注）学芸員課程授業科目のうち、卒業要件単位に含まれない科目があります。卒業要件に含まれるかどうかは「3-2または4-2 授業科目・単位数・担当教員」（22/42ページ）に準じます。

③ 「博物館実習」のうち館内実習については、前年度までに他の必修9科目（必須9科目は、開講年次に修得する必要があります）を全科目修得済みで、卒業見込みでなければ参加することができません。

④ 学芸員課程の受講を途中で取りやめる場合は、「学芸員課程受講取消届」をすみやかに教務課へ提出してください。

受講料等

① 学芸員課程受講料は10,000円です。

② 更に、館内実習について、実習料として10,000円を「館内実習届」提出の際に徴収します。

③ 一旦納入した受講料及び実習料は、返還しません。

④ 見学実習、学内実習、館内実習に係わる交通費、食事代、宿泊料等は自己負担とします。

履修科目

「学芸員課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」（28/48ページ）のとおりです。

博物館実習について

博物館実習は次の内容で行います。詳細は、ガイダンスおよびパレットで指示します。

実習の種類	内 容	必要実習時間
見 学 実 習	土曜日、日曜日、長期休業中に実施する博物館・美術館等の見学研修（8月上旬） 1日＝8時間、半日＝4時間	18時間以上
学 内 実 習	学内での調査・実習等	26時間
館 内 実 習	事前指導 実習館での実習 5日間以上 （原則4年次の夏期休暇中に実施） 報告レポート、プレゼンテーション等の事後指導	56時間
合 計		100時間以上

資格の取得について

本学において定める学芸員課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、学芸員の資格を取得することができます。資格を取得すれば、「学芸員資格証明書」を受けることができます。

スケジュール

第3学年	前期履修登録時（4月） 8月 3月～	学芸員課程受講届の提出 学芸員課程受講料（10,000円）の納付 博物館実習「見学実習」の実施 博物館実習「館内実習」の受入調整・依頼
第4学年	4月 5月～12月頃 3月 学位証授与式	「館内実習届」の提出 館内実習料（10,000円）の納付 博物館実習「館内実習」の実施 学芸員資格授与

6-10 教職課程の履修

本学では、美術・工芸学科の学生を対象に教員免許状を取得できる教職課程を設置しています。

取得できる教員免許状

- ・ 中学校教諭一種免許状（美術）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（美術）
- ・ 高等学校教諭一種免許状（工芸） ※2018年度入学者まで対象

教職課程履修条件

2017年度以降入学者

第2学年前期開始時

- ・ 通算GPAが2.0以上であること

第3学年前期開始時

- ・ 通算GPAが2.2以上であること

履修登録方法

- ① 第1学年の1月に教職課程についての説明会を開催します。美術・工芸学科の学生は、必ず出席してください。日時、場所、時間については、パレットで連絡します。
- ② 教職課程履修希望者は「教職課程受講届」を教務課に提出してください。提出期間等は1月に開催する説明会にて連絡します。
- ③ 教職課程の受講を途中で取りやめる場合は「教職課程受講取消届」をすみやかに教務課へ提出してください。

受講料等

- | | |
|-------------|---------|
| ① 教職課程履修受講料 | 15,000円 |
| ② 介護等体験実習費 | 10,000円 |
| ③ 教育実習費 | 10,000円 |

納入時期については、その都度、連絡します。

一旦納入した受講料等は、返還しません。

教育職員免許状申請時に新潟県に納入する申請手数料が必要となります。

上記のほか、介護等体験実習及び教育実習に係る交通費や食事代等は自己負担となります。

教員免許状取得のために履修を要する科目について

教員免許状を取得するためには、取得する教員免許状の種類に応じて単位を修得し、所定の実習を行う必要があります。各項目の科目等詳細については、「教職課程受講者の授業科目・単位数・担当教員」（29/49/50ページ）を確認してください。

- ・ 介護等体験実習

中学校教諭一種免許状を取得するためには行わなければならない実習です。原則として特別支援学校で2日間、社会福祉施設等で5日間、合計7日間の介護等体験が必要となります。

- ・ 教育実習

教育実習は、4年次に教育実習の目的、教育実習の視点、心構えを学び、学内での模擬授業の実施等による演習の後に免許状の種類により、中学校、高等学校において行う現場実習

です。

中学校教諭一種免許状を取得するためには中学校にて3週間の実習（教育実習Ⅰ・Ⅱを履修）、高等学校教諭一種免許状を取得するためには高等学校にて2週間の実習（教育実習Ⅰを履修）が必要です。中学校または高等学校で3週間の実習を行うことで中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を併せて修得することができます。

教育実習を履修するためには、教育実習の前年度までに開講された「教職に関する科目」（2019年度以降入学者は教育実習の前年度までに開講された「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち美術科指導法および「教育の基礎的理解に関する科目」および「道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談等に関する科目」）すべてを履修し、単位を修得していなければなりません。

資格の取得について

本学において定める教職課程履修科目の履修要件をすべて満たし、かつ本学を卒業することにより、在住する都道府県の教育委員会に教員免許状を申請し取得することができます。原則として、申請手続きは大学が一括して行います。

スケジュール

第1学年	1月 2月	教職課程説明会 「教職課程受講届」の提出
第2学年	4月 11月	教職課程履修受講料(15,000円)の納付 介護等体験実習事前ガイダンス 介護等体験申込書の提出
第3学年	4月 5～10月頃	介護等体験実習費(10,000円)の納付 教育実習事前ガイダンス 介護等体験実習実施ガイダンス 介護等体験実習
第4学年	4月 5～9月頃 1・2月 3月	教育実習費(10,000円)の納付 教育実習実施ガイダンス 教育実習 教育職員免許状一括申請 教育職員免許状の授与

上越教育大学大学院での資格取得

本学は2018年に上越教育大学と連携、協力に関する協定を締結しました。これにより教員免許状の取得を目的に上越教育大学大学院に進学する者は、本学学長の推薦により次の支援を受けることができます。

- ・上越教育大学大学院入学試験の筆記試験の免除
- ・上越教育大学大学院入学料の半額免除
- ・上越教育大学大学院入学後の学生宿舎への優先的な入居

美術・工芸学科以外の学生も当該大学院にて教員免許状を取得することができます。希望者には説明会を開催しますので、本学教務課に問い合わせてください。

6-11 地域・社会連携系科目(学部共通第4区分)の履修

学部共通第4区分にて地域・社会連携系科目として開講している「地域協創演習、ボランティア実習、インターンシップ」のうち1科目以上を修得する必要があります。科目の開講形式は公募型と自主活動型に分類されます。

- ・公募型:地域協創演習、ボランティア実習は大学でテーマを設定しプロジェクトを立ち上げ、4月に履修者を募ります(年度途中でプロジェクトを追加し、募集することもあります)。希望するプロジェクトに申し込み、活動に参加します。インターンシップは、6月頃に募集します。
- ・自主活動型:学生が自主的に実習先を探し、事前申請を経て、活動に参加します。

科目名	科目主旨	開講形式
地域協創演習	地域社会及び企業と、本学学生・教員が力を合わせた知的価値、地域価値、企業価値の創造を目指す。	公募型
ボランティア実習	奉仕(ボランティア)精神を実社会で実践し、日頃修練している知見・技術を社会に還元する経験を積むことを目指す。	公募型 自主活動型
インターンシップ	企業、自治体、NGO、NPOなどが提供するインターンシップや実習のプログラムに参加し、デザイン業務をはじめとした就業経験を積む。	公募型 自主活動型

※同一科目で2つ以上のプロジェクトを履修し修得した場合は、A、B…の順に単位を付与します。(例:地域協創演習B)

※地域・社会連携系科目(学部共通第4区分)はパレットによる履修登録ができません。公募型については、募集の際にパレットにて志望調査等を行います。

※実施期間により前期または後期に成績が付きます。

「自主活動型」の履修方法

- ① 学生自身で、「●単位認定の要件」を確認のうえ、参加を希望するボランティア活動やインターンシップを探す。
- ② 原則、参加の1週間前までに、事務局窓口以下に書類を提出する。(事前申請)

科目名	提出書類	提出先
ボランティア実習	・履修事前申請シート ・活動の内容を示す資料(任意書式)	教務課
インターンシップ	・インターンシップ届	キャリアデザインセンター

※単位認定の要件に該当しない場合は、単位の認定は行いません。(ボランティア実習については、提出書類により、要件を確認し結果を通知します)

- ③ ボランティア活動またはインターンシップに参加する。(本学学生として参加していることを強く意識するとともに、健康や安全に十分留意すること)
- ④ 活動後に実習先から、「インターンシップ・ボランティア実施証明書」の記入・押印を受ける。
- ⑤ ボランティア実習は、活動終了後1か月以内に、事務局窓口以下に書類を提出する。インターンシップは、別に定める期日までに、事務局窓口以下に書類を提出する。

(提出書類)

科目名	提出書類	提出先
ボランティア実習	・ インターンシップ・ボランティア実施証明書 ・ 実施報告書 (任意書式)	教務課に提出
インターンシップ		キャリアデザインセンター

●単位認定の要件

ボランティア実習	・ 3日間以上(累計22.5時間以上)の活動を要する内容であること ・ 科目主旨を満たす内容であること(主体性やチームワーク、考える力を必要とする内容であること)
インターンシップ	・ 5日間以上(累計22.5時間以上)の活動を要する内容であること ・ 科目主旨を満たす内容であること(実際の就業体験やデザインワークを主とする内容であること。また、業界説明・会社説明等を目的とした内容ではないこと)

●実施報告書の内容

以下の内容について簡潔に記載してください。(任意書式、A4判1枚程度)

- ・学科、学年、学籍番号、氏名 ・実習先(会社・団体名と部署名等) ・実施期間
- ・参加理由 ・実施内容
- ・参加して得た学びや、感じたこと(500～1000字程度)

以下の「社会人基礎力」の12能力要素のうち、活動を通じて特に身に付いたと思うものを、その理由とともに記載すること

- | | |
|-------------|---|
| ・前に踏み出す力として | ： 主体性、働きかけ力、実行力 |
| ・考え抜く力として | ： 課題発見力、計画力、創造力 |
| ・チームで働く力として | ： 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、
ストレスコントロール力 |

- ・今後の目標・課題(500字程度)
- ・活動内容についての写真、活動における作成物など
(写真は実習先から公開の許可が得られているもののみ)
- ・その他、各自加えたいものがあれば(任意)

●その他

- ・事前申請後、履修を辞退する場合には速やかに窓口へ申し出てください。また、自己都合による中断や活動終了後、期限内に書類提出がなかった場合は、不合格となります。
- ・本学では全学生を対象に「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入しています。授業としてのボランティア活動やインターンシップに参加する場合、参加中の事故により生じた法律上の損害賠償責任について補償されます。実習先から「インターンシップ保険」の加入証明書の提出を求められた場合は、事務局にて証明書を発行します。

7 試験と成績評価について

7-1 試験の種類

履修した授業科目の単位を修得するためには、原則として試験を受けて合格の評価を得なければなりません。担当教員から試験に代えてレポートや作品提出の指示があるときは、それに従ってください。

1. 試験の種類

試験には、定期試験、追試験、再試験があります。

定期試験 定期試験は、原則として前期、後期の各期最終授業日に実施されます。ただし、担当教員が必要と認めたときは、随時に試験が実施され、この試験をもって定期試験に代えることがあります。定期試験のための試験時間割は特に組まず、担当教員の判断のもとに行われます。

追試験 病気や災害、交通機関の遅延、忌引などの正当な理由により、定期試験（随時に実施される試験を含む）を受けられなかった者は、当該試験日を含む3日以内（ただし事務局非業務日を含めない）に教務課に連絡し指示を受けてください。あわせて、定期試験終了後1週間以内に、その理由を証明する書類を添え、追試験受験願を教務課に提出し、担当教員の許可があった場合に、追試験を受けることができます。追試験の受験にあたっては、受験料（1科目2,000円）が必要です。

欠席理由とそれを証明するための提出書類は次のとおりです。

欠席理由	提出書類
病気	医師の診断書または学校感染症に該当する場合、学校感染症治癒証明書
交通機関の遅延	当該交通機関の発行する遅延証明書
交通事故	事故証明書
親族の死亡・危篤	保護者や保証人の証明書またはこれに準ずるもの
就職試験	受験票の写しまたは受験先証明書
天災その他の災害	罹災証明書
その他止むを得ない理由	理由書

再試験 進級時に進級要件を満たさなかった者及び卒業学年修了時に卒業要件単位を満たさなかった者のうち、下記の全ての条件を満たした場合、特別に再試験の受験が認められます。（「再試験受験申請書」の提出が必要）

- ・卒業研究科目全てが合格していること（卒業時のみ）
- ・進級要件または卒業要件に不足している単位数が1科目分であること
- ・再試験対象科目の担当教員が、再試験の受験を認めていること

なお、再試験対象科目は本学開講科目で当該学期及び前学期に履修登録した科目のうち1科目に限ることとします。再試験の受験にあたっては、受験料（2,000円）が必要です。

2. 受験資格

- ① 学費を納入していること。
- ② 履修登録をしていて、授業ごとに決められた出席等要件を満たしていること。

※出席不良や学習意欲に欠けるなどの理由で、担当教員が受験を認めない場合があります。

3. 受験上の注意

- ① 試験を受ける際は、学生証を机の上に提示してください。
- ② 原則として、遅刻は試験開始後20分まで、また、途中退室は試験終了前20分から認めます。ただし、担当教員の判断でこの時間は変更することがあります。
- ③ その他、試験場では、試験監督者の指示に従ってください。

4. レポートの提出について

授業でレポート課題が課された場合、レポートの提出前に、必ず手元に記録(写し又はデータ)を残し、形式要件、誤字・脱字の有無を確認のうえ、提出してください。

提出先として事務局内に設置しているレポート受領ボックスにレポートを提出する場合は事務局窓口時間内に限られますので、締め切りに注意してください。

5. 不正行為

(1) 不正行為について

下記のいずれかに該当する行為は不正行為とみなします。

① レポートや作品提出の場合

- ・他人の作成した文書やレポート、他人が作成した作品等を自ら作成したものとして提出すること。(例：他人のデータをそのままコピーして提出すること、インターネット上の画像や文章など、引用を明示せずにそのまま利用すること等。)

② 定期試験、追試験、再試験の場合

- ・予め用意した模範回答(カンニングペーパー)や他人の答案などを見ること及び他の学生に自分の答案をみせること。
- ・本人以外の者が、代わって受験すること。
- ・許可のないものを使用すること。
- ・私語を交わすこと及び試験中に物の貸し借りをすること。
- ・監督者の指示及び注意に従わない行為をすること。

(2) 不正行為に対する処分

不正行為が確認された場合には、当該科目も含めその学期に履修したすべての科目を原則不合格とします。

あわせて、不正行為は学則第47条に基づいて懲戒処分の対象となります。

7-2 成績評価

成績の評価は、担当教員の授業方針、評価方法によって異なりますが、試験、レポート・作品提出、授業出席の状況、その他に基づいて行われます。

バレットに掲載のシラバスに、個々の授業科目について「学生に対する成績評価基準」として、その詳細が記載されています。

1. 成績評価基準について

本学における授業科目

判定	評価	評点	評価基準	GP
合格	S	100点～90点	授業の達成目標を上回る優れた成果を成し遂げた	4
	A	89点～80点	授業の達成目標を十分に達成した	3
	B	79点～70点	授業の達成目標を概ね達成した	2
	C	69点～60点	授業の達成目標を最低限達成した	1
不合格	D	59点以下	授業の達成目標を達成できなかった	0

S・A・B・Cの評価を得た者を合格とし、単位を授与します。

編入学生及び転学科生の認定された単位については、「認」と表示され、GPAの算出には含まれません。

2. GPAについて

教員と学生両者がより明確に成績や成績の変化、傾向を把握することにより履修計画、履修指導の適切化を図るため、GPA制度を導入しています。GPAとはGrade Point Averageの略で、成績評価にGP（Grade Point）と呼ばれる点数を付与し、当該期に履修した各科目のGPにその科目の単位数を乗じたものの合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出する平均値をさします。

D評価もGPAの算出に含みますので、慎重に履修計画を立て、履修登録した科目には責任を持って取り組んでください。GPAは、学期ごとに算出され、自分のGPAと所属する学科学年のGPAが成績通知表に記載されます。(成績証明書には不合格科目は記載されません。)

【GPAの算出式】

$$\frac{4 \times \text{Sの修得単位数} + 3 \times \text{Aの修得単位数} + 2 \times \text{Bの修得単位数} + 1 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「D」の単位数を含む）}}$$

【GPA算出例】

授業科目名	単位数	評価 (GP)	単位数×GP
美術論	2 単位	S(4)	2×4=8
英語中級 I	2 単位	C(1)	2×1=2
美術・工芸特別講義	1 単位	B(2)	1×2=2
写真	4 単位	A(3)	4×3=12
広告論	2 単位	D(0)	2×0=0
	①11単位		②24

$$\text{GPA} = \text{②} \div \text{①} \rightarrow 24 \div 11 = 2.18$$

7-3 成績通知表の見方

2020年度 前期 長岡造形大学 成績通知表 20 / 60/00											
学 部	造形学部	学籍番号	109999								
学 科	造形デザイン学科	氏 名	長岡 千佳								
専 攻		(カナ)	チガキチカ テアキ								
学 年	1学年	姓 別	女								
科目名	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位
小論文科目(必修)	1	現代デザイン概論	1	A	2020	デザインソフト基礎講座	1	B	2020		
英語I	2	英語I	2	B	2020	現代デザイン概論(前期)	1	B	2020		
英語II	2	英語II	2	B	2020	現代デザイン概論(後期)	1	B	2020		
英語III	2	英語III	2	B	2020	現代デザイン概論(後期)	1	B	2020		
英語IV	2	英語IV	2	B	2020						
英語V	2	英語V	2	B	2020						
英語VI	2	英語VI	2	B	2020						
英語VII	2	英語VII	2	B	2020						
英語VIII	2	英語VIII	2	B	2020						
英語IX	2	英語IX	2	B	2020						
英語X	2	英語X	2	B	2020						
英語XI	2	英語XI	2	B	2020						
英語XII	2	英語XII	2	B	2020						
英語XIII	2	英語XIII	2	B	2020						
英語XIV	2	英語XIV	2	B	2020						
英語XV	2	英語XV	2	B	2020						
英語XVI	2	英語XVI	2	B	2020						
英語XVII	2	英語XVII	2	B	2020						
英語XVIII	2	英語XVIII	2	B	2020						
英語XIX	2	英語XIX	2	B	2020						
英語XX	2	英語XX	2	B	2020						
英語XXI	2	英語XXI	2	B	2020						
英語XXII	2	英語XXII	2	B	2020						
英語XXIII	2	英語XXIII	2	B	2020						
英語XXIV	2	英語XXIV	2	B	2020						
英語XXV	2	英語XXV	2	B	2020						
英語XXVI	2	英語XXVI	2	B	2020						
英語XXVII	2	英語XXVII	2	B	2020						
英語XXVIII	2	英語XXVIII	2	B	2020						
英語XXIX	2	英語XXIX	2	B	2020						
英語XXX	2	英語XXX	2	B	2020						
英語XXXI	2	英語XXXI	2	B	2020						
英語XXXII	2	英語XXXII	2	B	2020						
英語XXXIII	2	英語XXXIII	2	B	2020						
英語XXXIV	2	英語XXXIV	2	B	2020						
英語XXXV	2	英語XXXV	2	B	2020						
英語XXXVI	2	英語XXXVI	2	B	2020						
英語XXXVII	2	英語XXXVII	2	B	2020						
英語XXXVIII	2	英語XXXVIII	2	B	2020						
英語XXXIX	2	英語XXXIX	2	B	2020						
英語XXXX	2	英語XXXX	2	B	2020						
英語XXXXI	2	英語XXXXI	2	B	2020						
英語XXXXII	2	英語XXXXII	2	B	2020						
英語XXXXIII	2	英語XXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXIV	2	英語XXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXV	2	英語XXXXV	2	B	2020						
英語XXXXVI	2	英語XXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXVII	2	英語XXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXVIII	2	英語XXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXIX	2	英語XXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXX	2	英語XXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXI	2	英語XXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXII	2	英語XXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXIII	2	英語XXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXIV	2	英語XXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXV	2	英語XXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXVI	2	英語XXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXVII	2	英語XXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXVIII	2	英語XXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXIX	2	英語XXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXX	2	英語XXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXI	2	英語XXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXII	2	英語XXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXIII	2	英語XXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXIV	2	英語XXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXV	2	英語XXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXVI	2	英語XXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXVII	2	英語XXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXVIII	2	英語XXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXIX	2	英語XXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIX	2	英語XXXXXXXIX	2	B	2020						
英語XXXXXXX	2	英語XXXXXXX	2	B	2020						
英語XXXXXXXI	2	英語XXXXXXXI	2	B	2020						
英語XXXXXXXII	2	英語XXXXXXXII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIII	2	英語XXXXXXXIII	2	B	2020						
英語XXXXXXXIV	2	英語XXXXXXXIV	2	B	2020						
英語XXXXXXXV	2	英語XXXXXXXV	2	B	2020						
英語XXXXXXXVI	2	英語XXXXXXXVI	2	B	2020						
英語XXXXXXXVII	2	英語XXXXXXXVII	2	B	2020						
英語XXXXXXXVIII	2	英語XXXXXXXVIII	2	B							

7-6 留年

進級要件を満たさなかった者及び第4学年終了時に卒業要件を満たさなかった者は、留年になります。

必修科目が不合格となった場合、授業時間割の編成上、次年度再履修するこれらの科目と他の必修科目が重なり、どちらかの必修科目が、その年度には履修できなくなる場合もありますので、注意してください。

7-7 履修指導

それぞれの志向や進路希望に応じて、入学時から段階的、系統的に履修できるよう適切な助言・指導を行うため、ホームルーム編成を行います。みなさんの希望や必要に応じて随時履修指導を行いますので、ホームルーム担任に相談してください。

なお、教務課においても相談に応じます。履修登録、成績通知表配付時はもちろん、心配な点や疑問点は気軽に相談してください。

事務局窓口対応時間	8:30 ~ 17:00
メール	gakumu@nagaoka-id.ac.jp
電話	0258-21-3351

※土曜・日曜・祝日・校舎閉鎖日は終日窓口業務および電話対応は行っていません。

7-8 授業評価アンケート

履修している授業について、授業の理解度や興味・関心、また、授業の改善点、要望などを学生の目線にて率直に把握するために、各学期末に科目ごとに授業評価アンケートを実施しています。

学生のみなさんの声が、よりよい授業運営につながりますので、必ず回答してください。

回答はパレットの「授業評価アンケート」にて、行ってください。

(その他、科目により回答方法が異なる場合は別途パレットにて連絡します)

8 各種制度について

8-1 転学科制度

本学内において他の学科への転学科を志願する者は、教授会において選考の上、学長が転学科を許可することがあります〔学則第40条〕。転学科試験の詳細については「転学科試験実施要領」（9月頃パレットに掲載）で確認してください。

出願資格

本学に在籍し、在学年限内に卒業が可能な者。

日程

出願期間	1月上旬頃～2月中旬頃
審査	2月下旬頃
発表	3月中旬頃

出願書類

- ① 転学科願（現在所属している学科長及び希望学科の学科長に事前相談（転学科後の履修計画等）を行い、相談者の欄に確認印をもらうこと）
- ② 転学科志望理由書
- ③ 転学科受験料納付書
- ④ 受験料2,000円

審査方法

書類審査および面接試験

転学科の時期

審査を受けた年度の次年度4月1日から

転学科後の配属年次及びカリキュラム年度

「第2学年」に配属します。このため、実質的な学年が下がり、4年間での卒業が不可能となる場合があります。カリキュラム年度は転学科先の第2学年のものが適用されます。

他学科専門教育科目の履修

転学科を志願する者は、授業を開講する学科の学科長の許可があった場合、他学科の専門教育科目を履修することができます。履修については、事前に希望学科の学科長または教務課に相談してください。（特に、1年次基礎造形実習Ⅱの履修については、あらかじめ相談するようにしてください。）

既修得単位の取り扱い

転学科の許可を受けた者が既に取得した単位は、転学科実施要領に基づいて単位の読み替えを行います。読み替えできない科目については自由選択科目として取り扱います。

8-2 既修得単位認定

本学において教育上有益と認めるときは、本学に入学する前に他の大学または短期大学等において履修し、修得した単位（科目等履修生の規定により修得した単位を含む）と入学後、他大学等において修得し、本学において修得したものとみなされた単位数と合わせて60単位を限度として、本学において修得した単位（「認」とみなすことができます。〔学則第35条〕

入学前に修得した単位を有し、かつ認定を希望する者は、入学年度の4月中に、修得単位を示す成績証明書等の資料を添え、既修得単位認定願を教務課に提出してください。

8-3 資格取得等による単位の認定

●TOEICスコア

TOEIC 及び TOEIC-IP (長岡造形大学を通して受験したもの) のスコアにより、英語科目の単位を本学において修得したものとみなすこと (「認」) ができます。

TOEICスコア及び認定単位数

2014年度以降入学者

TOEICスコア	認定科目	認定単位数
600点以上	英語上級 I および英語上級 II	4 単位

TOEIC スコアによる単位の認定を希望する者は、Educational Testing Service が発行する TOEIC スコアの公式認定証 (原本) を添え、TOEIC スコアによる単位認定願を下記の受付期間内に教務課に提出してください。(ただし、申請締切日より遡って2年以内のものに限る。)

受付期間

前期 4月1日(水)～5月29日(金) 後期 9月1日(火)～9月30日(水)

●測量士補

国土交通省国土地理院が所管する国家資格、「測量士補」として登録していることにより、建築・環境デザイン学科の専門教育科目、「測量学実習」(2単位)を本学において修得したものとみなすこと (「認」) ができます。

単位認定を希望する者は、資格の取得及び「測量士補」として登録していることを証明する書類を添え、「測量士補登録による単位認定願」を下記の受付期間内に教務課に提出してください。

受付期間

4月1日(水)～5月29日(金)

8-4 本学以外での学修

本学において教育上有益と認めるときは、他の大学・短期大学・高等専門学校との協議に基づき、他大学または短期大学における授業科目を履修することができます。これにより、履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て、60単位を限度として本学において修得した単位とみなすことができます。〔学則第33・34条〕

本学では、これに基づき以下の制度により本学以外で学修することができます。

●単位互換制度

本学は長岡技術科学大学、長岡大学、新潟工科大学、放送大学と単位互換協定を締結しており、それぞれの大学の授業科目を履修することができます。これにより、履修にかかる入学金、授業料等は免除されます。

いずれの大学において修得した単位も、本学の規定の範囲内で本学における履修とみなすこと (「認」) ができますが、認定される区分・単位数等の取り扱いは異なる場合があります。

履修を希望する場合は、パレットでの募集案内に従い、事務局にて所定の手続きをしてください。

大学名	授業科目の特徴	募集時期
長岡技術科学大学	教養科目、工学系専門科目	4月頃・8月頃
長岡大学	教養・語学科目、経営・経済系専門科目	4月頃・8月頃
新潟工科大学	教養科目、工学・建築系専門科目	4月頃・8月頃
放送大学	広く教養科目	1月頃・7月頃

※放送大学については、授業料が必要となりますが、単位を修得した場合は、奨学金として相当額を本学より支給します。

●留学

海外留学を希望する学生は、学長の許可を得て、留学することができます。〔学則第41条〕

本学は、デザイン分野を専門とする海外の大学と提携し、大学間の交流協定に基づき、留学をすることができます。留学を希望する場合は、履修科目や取り組み内容等についての相談・手続きに時間を必要としますので、早期に教務課に相談してください。

その他、短期留学以外にも、興味に応じて海外提携大学の短期プログラム(サマースクールやワークショップ)に参加することもできます。

また、海外提携大学との交流事業等を対象に、渡航費用の1/2の額(上限10万円)を給付する国際交流事業支援奨学金制度を設けています。海外で有意義な活動をするために活用してください。詳細は教務課に相談してください。

海外提携大学

提携大学	国	主な交流内容
トリアー応用科学大学	ドイツ	交換留学プログラム(学部・大学院)※
ノリッチ芸術大学	イギリス	ワークショップ
ハワイ大学建築学部	米国	ワークショップ
漢陽大学	韓国	交換留学プログラム(大学院) サマースクール
東西大学	韓国	交換留学プログラム(大学院)
大同大学	台湾	-
濰坊学院	中国	-

※トリアー応用科学大学との交換留学プログラム

本学は、2018年に長岡市の姉妹都市であるトリアー市にあるトリアー応用科学大学と交流協定を締結し、学生の受入・派遣を行う交換留学プログラムを実施しています。

交換留学プログラムを通して、建築、インテリア、ファッション、インターメディアコミュニケーションデザイン、ジュエリーなどの専門性をもつトリアー応用科学大学にて授業の受講や研究制作に取り組むことができます。

前期・後期に派遣学生の募集を行いますので、希望する学生は留学開始の5か月前には教務課に申し出てください。

- ・交換留学期間は、前期(3月下旬～7月下旬)、後期(9月下旬～1月下旬)または全期となります。
- ・学部生・大学院生ともに対象とし、出願には英語によるポートフォリオをはじめとする書類の提出が必要です。提出書類に基づく選考により、派遣の可否(若干名)を決定します。
- ・トリアー応用科学大学への授業料、入学料の納付は免除されます。ただし、現地での居住費等が必要です。
- ・トリアー応用科学大学の授業や研究指導は英語及びドイツ語となります。
留学生向けに、各学科では英語のみで実施する授業を数多く開講しています。
- ・交換留学期間中の本学科目の履修については、進級・卒業に関わる場合がありますので、綿密な学修計画を立てる必要があります。

8-5 学修度チェック

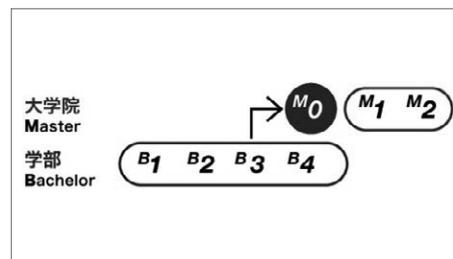
就職・進学など卒業後の進路決定を控える3年生に対して、3年次終了時点での自らの実力を確認し、就職試験や大学院受験において必要な準備を進める機会として「学修度チェック」を実施します。自らの進路に対しての意識を高めてもらう機会として位置づけていますので、ぜひ活用してください。

学修度チェックの結果は、本学大学院への進学における「3on3制度」による「M0（エムゼロ）認定」に利用します。これは、「一定水準」を満たす学生を対象に学部4年次を修士課程0年次（＝M0）として認定し、修士課程の基礎科目の先行受講を認めることで修士課程期間を実質3年間として取扱うものです。

また、M0として認定を受けた学生が大学院に進学する場合には「3on3入学試験」を利用することができ、意欲のある学生の進学を後押しする制度です。

*学修度チェックの結果は、成績や卒業に影響を与えるものではありません。

*修士課程の基礎科目については、大学院履修ガイドを確認してください。



3on3制度によるM0認定のイメージ

学修度チェックの項目

①通算GPA

学部1年前期～3年後期までの通算GPAを確認します。

②TOEIC・IPテストの実施

1月下旬に本学にて全3年生が一斉に受験します。（受験料は大学が負担します）

③ポートフォリオの提出

自らの活動・成果をまとめ、自己アピールするためのポートフォリオの制作について、提出状況を確認します。（各学科の授業内で確認を行います）

学修度チェックによるM0認定基準

以下の基準を満たす場合、M0として認定します。

項目	基準	基準の根拠
通算GPA	2.5以上	授業の達成目標を達成したと認められる水準
TOEICスコア	TOEIC L&Rテスト 400点以上	本学の大学院で研究活動を始めることができる水準
ポートフォリオ	提出し、かつ指導教員が認める内容であること	就職・進学における十分な内容のポートフォリオであるか

*M0認定を受けたことが卒業を約束するものではありませんので、注意してください。

学修度チェックの結果の配付について

第3学年後期の成績通知表とあわせて、全3年生に学修度チェックの結果を配付します。

また、M0認定の結果についても、同時に通知をします。M0認定を受けた学生は、4年次前期に修士課程の基礎科目群の授業を受講することができます。

なお、先行して受講した授業の単位は本学大学院修士課程入学後に、修士課程1年前期に修得したものとして認定します。

8-6 学芸員課程履修者以外の学芸員科目履修

学芸員課程履修者以外にも学芸員課程科目を履修することができます。

対象者

学部第3学年～第4学年

履修を認める科目

学芸員科目として開講している科目のうち、以下の7科目とし、いずれも卒業・進級要件には含まれないものとします。

- ・生涯学習概論（2単位）
- ・博物館展示論（2単位）
- ・博物館経営論（2単位）
- ・博物館情報・メディア論（2単位）
- ・博物館資料論（2単位）
- ・博物館教育論（2単位）
- ・博物館資料保存論（2単位）

定員

各科目15名とします。

定員を超えて応募があった場合は第4学年を優先し、履修実績等を加味して決定します。

履修方法

前期履修登録時期に教務課に受講届を提出する必要があります。

受講料

履修者決定後、履修者は受講料10,000円を納入してください。

受講料は科目数にかかわらず一律とし、履修学年が第3学年～第4学年の2年間に渡った場合でも10,000円とします。

9 資格について

学芸員資格

全 学 科

本学の学生は学芸員資格取得に必要な科目を履修することにより卒業と同時に学芸員の資格が取得できます。

履修の詳細については、「6-9 学芸員課程の履修」(68ページ)を参照して下さい。

また、学芸員課程履修者以外で学芸員の資格認定を希望する者は、本学を卒業した後、文部科学省が実施する試験認定を受験することができます。筆記試験に合格し、1年間学芸員補の職に従事した後に資格が認定されます。本学にて学芸員課程の科目の単位を修得している場合は、該当する試験科目が免除されます。詳しくは教務課まで問い合わせてください。

教員免許

美術・工芸

美術・工芸学科の教育課程を修了し、教員免許状取得に必要な科目を修得した者は、次の教員免許を取得することができます。

- ・中学校教諭一種免許状(美術)
- ・高等学校教諭一種免許状(美術)
- ・高等学校教諭一種免許状(工芸)※2018年度入学者まで対象

履修の詳細については、「6-10 教職課程の履修」(70ページ)を参照して下さい。

技術検定受験資格

建築・環境

技術検定とは、土木工事等の建設業の施工管理等に係る国家試験を取得するための検定で、以下の6種目があります。

- ・建設機械施工
- ・土木施工管理
- ・建築施工管理
- ・電気工事施工管理
- ・管工事施工管理
- ・造園施工管理

建築・環境デザイン学科を卒業後、当該種目において1年以上の実務経験を経た者に2級、指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を経た者に1級技術検定の受験資格が与えられます。ただし、2級技術検定においては建設機械施工を除き、建築・環境デザイン学科を卒業見込み又は卒業後1年以内の者は実務経験を積むことなく学科試験を受験することが可能です。この場合、学科試験と同時に行われる実地試験は、学科試験に合格し所定の実務経験を積んだ後に受験することができます。またこれにより学科試験に合格した者は、卒業後4年以内に行われる連続する2回の技術検定の学科試験が免除され、実地試験のみ受験することができます。

商業施設士受験資格

建築・環境

本学は、公益社団法人商業施設技術団体連合会より商業施設士試験受験資格認定課程として認定されています。これにより、商業施設士及び商業施設士補の資格取得に必要な事項が軽減されます。

●商業施設士

本学教育課程の修了・卒業により、商業施設士試験の受験資格である実務経験年数が1年に短縮されます。

●商業施設士補

本学が認定を受けている科目を、必要単位数以上修得又は修得見込みであり学長の推薦を受けたものは、公益社団法人商業施設技術団体連合会が実施する商業施設士補の講習会を受講することができます。講習会を受講することにより、商業施設士補の資格を取得することができます。

また、商業施設士補の資格を取得した場合は、商業施設士試験の学科試験が免除され、さらに実務経験なしで実技試験を受験することができます。

第3学年までに商業施設士補の資格を取得し、翌年の商業施設士試験に合格した場合、在学中に商業施設士の資格が取得できます。

認定科目及び必要単位数の詳細は次の「商業施設士補認定科目・単位数」を確認してください。

商業施設士補認定科目・単位数

【A 群】

区分	科目	充当する教科名	単位数	必要単位数
A-1 商業一般	商業一般に関する科目	マーケティング論 商品記号論 デザインマネジメント	2 2 2	2区分以上に わたり計30単 位以上
A-2 業態計画	商業施設の構成に関する科目	建築・環境デザイン特別講義 プロダクトデザイン特別講義	1 1	
A-3 計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計に関する科目	空間安全論 インテリア 建築法規 建築・インテリア演習Ⅰ 建築・インテリア演習Ⅱ 建築設備 建築設計 建築・環境デザイン演習Ⅰ 建築・環境デザイン演習Ⅱ	2 2 2 4 4 2 2 4 4	
A-4 施設計画	建築一般に関する科目	建築計画Ⅰ 建築計画Ⅱ 建築史 建築環境工学 建築構法 建築材料実験	2 2 2 2 2 2	
A-5 監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目	構造力学Ⅰ 構造力学Ⅱ 建築構造 建築材料 建築施工	2 2 2 2 2	

【B 群】

区分	科目	充当する教科名	単位数	必要単位数
B-1 図案表現	設計・製図・CAD・CGなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目	製図実習 建築・環境CAD実習 基礎造形実習Ⅰ（デザイン）	2 2 2	4単位以上

*2014年度以降入学者から商業施設士補の資格取得対象は、建築・環境デザイン学科のみとなりました。

登録ランドスケープアーキテクト (RLA)

建築・環境 ランドスケープ系研究室

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度とは、ランドスケープアーキテクトとして実務を遂行するために必要な「一定の知識と技量からなる能力」を試し、個人を登録ランドスケープアーキテクト (RLA) として認定する制度です。

建築・環境デザイン学科のランドスケープ系研究室に所属し卒業した場合に、資格認定試験受験資格となる実務経験年数が3年以上に短縮されます。

インテリアプランナー登録資格

建築・環境

本学建築・環境デザイン学科は、公益財団法人建築技術教育普及センターの定めるインテリア又は建築に関する課程で「個別に認められている課程 (認定基準 I)」として認められています。

インテリアプランナー試験 (IP 試験) に合格し、必要実務経験年数を満たした場合、インテリアプランナー登録を受けることができます。

本学教育課程を修了し卒業することにより、登録に必要な実務経験年数が卒業後2年以上に短縮されます。

なお、インテリアプランナー登録には、登録申請時に学長が発行する「インテリアプランナー登録資格に係る単位取得証明書」の提出が必要です。

建築士受験資格

建築・環境

建築・環境デザイン学科の学生は建築士試験指定科目を修得することにより、建築士試験の受験資格を得ることが出来ます。修得した単位数によって受験可能な資格や卒業後に必要となる実務経験の年数が異なります。

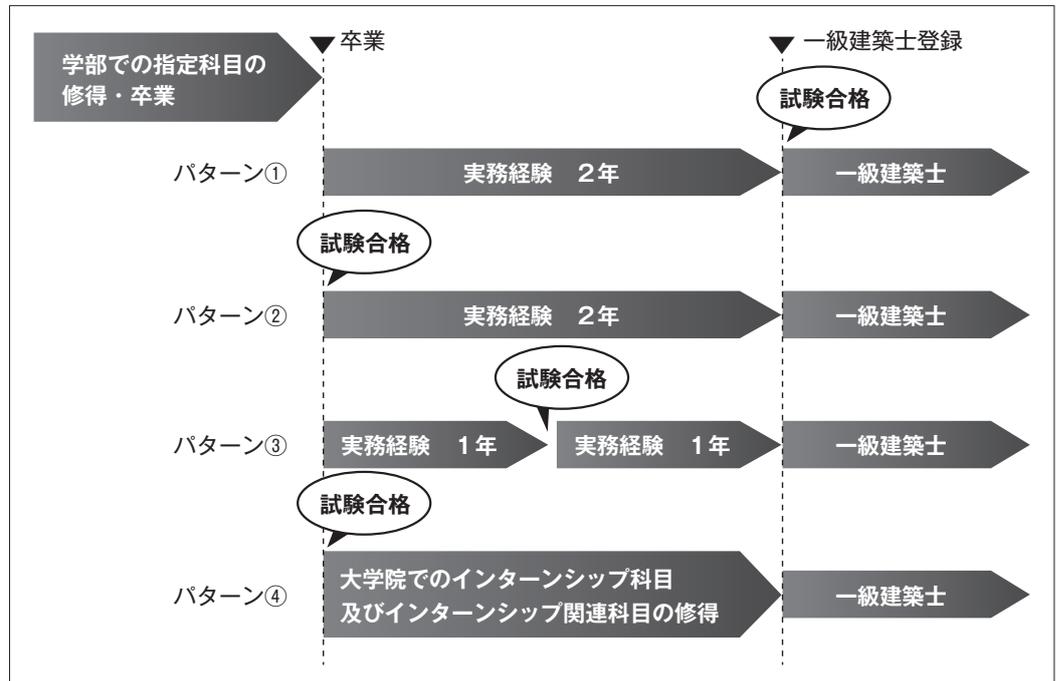
建築士法の一部を改正する法律の施行 (令和2年3月1日) により、所定の指定科目を修めて卒業する者には、卒業後すぐに「二級・木造建築士試験」に加えて、「一級建築士試験」も受験可能となりました。

また、本学大学院に進学した場合、修士課程で開講しているインターンシップ科目及びインターンシップ関連科目を修得することにより、建築士免許登録要件に必要な実務経験として認められます。

これにより、学部卒業後に試験受験・合格し、大学院修士課程で実務経験を積むことにより、最短で修士課程修了時に、「一級建築士」免許の登録が可能となります。

*卒業時に、二級建築士の要件を満たす場合には、「二級建築士試験指定科目修得単位証明書・卒業証明書」を一通発行します。

〈一級建築士登録のモデルケース〉



建築士受験資格の取得には「建築士受験資格指定科目」(88・89ページ)に記載する①～⑨までの各区分の必要単位数の取得と、①～⑨及び⑩の合計の必要単位数の取得の両方の要件を満たすことが必要になります。(必要経験年数と必要単位数は下表のとおり)

必要経験年数と必要単位数

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7単位	7単位	7単位	3単位	3単位	3単位
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	3単位	3単位	3単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	2単位	2単位	2単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位	3単位	3単位	3単位
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位			
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	10単位	10単位	10単位
①～⑨の計 (a)	30単位	30単位	30単位	10単位	10単位	10単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

公益財団法人 建築技術教育普及センター ホームページより抜粋

* 建築士法の一部を改正する法律の施行により、二級・木造建築士試験の指定科目に対する必要単位数が変更となり、大幅に緩和されました。

建築士受験資格指定科目（2014～2016年度入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験必要単位数	二級・木造建築士受験必要単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
①	製図実習	2		■								7単位以上	3単位以上
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■								
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■						
	建築設計	2	2					■					
②	建築計画Ⅰ	2				■						7単位以上	2単位以上
	都市計画	2				■							
	建築計画Ⅱ	2					■						
	空間安全論	2				■							
	建築史	2						■					
③	建築環境工学	2					■				2単位		
④	建築設備	2							■		2単位		
⑤	構造力学Ⅰ	2					■				4単位		
	構造力学Ⅱ	2	2						■				
⑥	建築構法	2			■						3単位以上	3単位以上	
	建築構造	2					■						
⑦	建築材料	2								■	2単位以上		
	建築材料実験	2				■							
⑧	住宅リフォーム論	2				■					2単位以上	1単位以上	
	建築施工	2								■			
⑨	建築法規	2							■		1単位以上	1単位以上	
⑩	建築・環境CAD実習	2			■						【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が40単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 60単位以上の場合：0年 50単位以上の場合：1年 40単位以上の場合：2年	【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が20単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 40単位以上の場合：0年 30単位以上の場合：1年 20単位以上の場合：2年	
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■							
	測量学実習	2				■							
	建築・環境CG実習Ⅰ	2				■							
	緑地環境設計	2						■					
	建築・環境CG実習Ⅱ	2					■						
	エコロジカルプランニング	2							■				
	コミュニティデザイン	2								■			
	人間工学	2			■								
	建築・環境デザイン概論	2			■								
	都市論	2				■							
	インテリア	2				■							
	緑地環境計画	2					■						
	都市デザイン	2						■					
居住論	2							■					
建築・環境デザイン特別講義	1								■				

建築士受験資格指定科目（2017年度入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験必要単位数	二級・木造建築士受験必要単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
①	製図実習	2		■								7単位以上	3単位以上
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■								
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4						■					
	建築設計	2	2						■				
②	建築計画Ⅰ	2				■					7単位以上	2単位以上	
	都市計画	2				■							
	建築計画Ⅱ	2					■						
	建築史	2						■					
	建築環境工学	2						■					
④	建築設備	2							■		2単位		
⑤	構造力学Ⅰ	2					■				4単位		
	構造力学Ⅱ	2	2						■				
⑥	建築構法	2			■						3単位以上	3単位以上	
	建築構造	2					■						
⑦	建築材料	2								■	2単位以上		
	建築材料実験	2				■							
⑧	住宅リフォーム論	2				■					2単位以上	1単位以上	
	建築施工	2								■			
⑨	建築法規	2							■		1単位以上	1単位以上	
⑩	建築・環境CAD実習	2			■						【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が40単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 60単位以上の場合：0年 50単位以上の場合：1年 40単位以上の場合：2年	【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が20単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 40単位以上の場合：0年 30単位以上の場合：1年 20単位以上の場合：2年	
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■							
	空間安全論	2				■							
	測量学実習	2				■							
	建築・環境CG実習Ⅰ	2				■							
	緑地環境設計	2						■					
	建築・環境CG実習Ⅱ	2					■						
	エコロジカルプランニング	2							■				
	コミュニティデザイン	2								■			
	人間工学	2			■								
	建築・環境デザイン概論	2			■								
	都市論	2				■							
	インテリア	2				■							
	緑地環境計画	2					■						
都市デザイン	2						■						
居住論	2							■					
建築・環境デザイン特別講義	1								■				

建築士受験資格指定科目（2018年度以降入学者）

区分	科目名	単位数		履修学年								一級建築士受験必要単位数	二級・木造建築士受験必要単位数
				第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
①	製図実習	2		■								7単位以上	3単位以上
	建築・環境デザイン演習Ⅰ	4			■								
	建築・環境デザイン演習Ⅲ	4					■						
	建築設計		2					■					
②	建築計画Ⅰ	2				■						7単位以上	2単位以上
	都市計画	2				■							
	建築計画Ⅱ	2					■						
	建築史	2					■						
③	建築環境工学	2					■				2単位		
④	建築設備	2							■		2単位		
⑤	構造力学Ⅰ	2					■				4単位		
	構造力学Ⅱ	2							■				
⑥	建築構法	2			■						3単位以上	3単位以上	
	建築構造	2					■						
⑦	建築材料	2						■			2単位以上		
	建築材料実験	2				■							
⑧	住宅リフォーム論	2				■					2単位以上	1単位以上	
	建築施工	2								■			
⑨	建築法規	2								■	1単位以上	1単位以上	
⑩	建築・環境CAD実習	2			■						【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が40単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 60単位以上の場合：0年 50単位以上の場合：1年 40単位以上の場合：2年	【受験に必要な単位数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が20単位以上 【免許登録に必要な実務経験年数】 ①～⑨の必要単位数の条件を満たし、 ①～⑩の合計単位数が 40単位以上の場合：0年 30単位以上の場合：1年 20単位以上の場合：2年	
	建築・環境デザイン演習Ⅱ	4				■							
	空間安全論	2				■							
	測量学実習	2				■							
	建築・環境CG実習Ⅰ	2				■							
	緑地環境設計	2					■						
	建築・環境CG実習Ⅱ	2					■						
	エコロジカルプランニング	2							■				
	コミュニティデザイン	2								■			
	人間工学	2				■							
	建築・環境デザイン概論	2				■							
	都市論	2					■						
	インテリア	2					■						
	緑地環境計画	2					■						
	都市デザイン	2						■					
	居住論	2						■					
建築・環境デザイン特別講義	1						■						

10 各種同意事項について

本学での修学において、あらかじめ学生が同意している事項について、各種同意書の内容を示しますので確認してください。

● 学則及び諸規程の遵守について〔誓約書〕

貴学に入学のうえは、学則及び諸規程を遵守するとともに専心勉勵し、長岡造形大学の学生としての本分を全うすることを誓います。

● 個人情報の取扱い〔個人情報取扱いに係る同意書〕

私は、私の個人情報について公立大学法人長岡造形大学及び長岡造形大学(以下「本法人等」という。)が以下の行為を行うことに同意します。

1. 個人情報の利用目的について

本法人等は、学生から取得する個人情報を次に掲げる目的で利用します。学生の同意を得ることなく、次に掲げる目的以外に、保有する学生の個人情報を利用しません。

- (1) 履修、成績管理、授業運営等大学教育、研究を実施するため
- (2) 学籍管理、進路指導、健康管理、奨学金等学生支援に関する業務を実施するため
- (3) 各種証明書発行、学費収納等の業務を実施するため
- (4) 入学式、学位記授与式等大学のイベントの業務を実施するため
- (5) 大学施設や学内ネットワークの利用等管理業務を実施するため
- (6) ホームページ・パンフレットへの掲載等本学広報業務を実施するため
- (7) 学生、保証人へ連絡するため

2. 保護者等への提供について

本法人等が保有する次に掲げる学生の個人情報は、保護者等に対して提供することがあります。情報提供をする場合の方法は、原則、教務課に届けのある保護者等の住所宛に郵送とし、緊急の場合は電話とします。なお、学業成績については学生ポータルサイトパレットを通じて提供します。

- (1) 進級状況(氏名、学籍番号、学科、履修科目名、単位、成績等)
- (2) 疾病・事故等の情報(氏名、学籍番号、疾病・事故等の内容等)

3. 第三者への提示・公開について

本法人等が保有する学生の個人情報は、次に掲げる場合に第三者に提示等をします。この場合、提示等をする個人情報は、必要最小限の情報とします。

- (1) あらかじめ機密保持契約を締結した企業等に、本法人等が必要と判断した範囲において業務委託等のために提示する場合
- (2) 本学関連団体(校友会、保護者会等)へ提供する場合
- (3) 健康診断を実施する企業、奨学事業を実施する団体へ提示する場合
- (4) 本学学生に対する卒業後の進路情報を提示する場合
- (5) 本学学生の出身高校の教員に対する学業と進路に関する情報を提示する場合
- (6) 大学の広報としてホームページ、パンフレット等に掲載する写真・作品に付随する個人情報を掲載する場合
- (7) 人の生命、身体又は財産の保護のために緊急に必要な場合
- (8) 法令等の定めにより個人情報の開示が求められた場合

● 授業等で制作した課題等における利用許諾について〔利用許諾書〕

私が創作・著作し、長岡造形大学に提出する授業課題、卒業・修了研究成果またはそれに相当する特定の課題成果に関し、同大学に対して、下記の利用行為を反復して行うことを許諾します。

ただし、この許諾は、下記の利用行為を長岡造形大学が健全に行うことが前提であり、また、これらの創作物及び著作物について私が有する氏名表示権及び同一性保持権に影響を及ぼすものではありません。

1. 公表すること
2. 複製すること
3. 複製物を公衆に譲渡すること
4. 複製物を公衆に貸与すること
5. 長岡造形大学のウェブサイトに掲載し、公衆に送信すること
6. 民間デザイン団体等にデザイン登録し、そのホームページを通じて、公衆に送信すること

なお、当該創作・著作物について財産権の譲渡を行った場合には、長岡造形大学に遅滞なく連絡します。

● 電子メールアドレス利用について〔電子メールアドレス利用誓約書〕

私は、長岡造形大学が在籍者に配付するメールアドレス(ドメイン[st.nagaoka-id.ac.jp])により電子メールを使用するに当たり、長岡造形大学の学則及び諸規則並びに下記の事項を遵守することを誓約します。

なお、違反行為を行った場合には相応の処分を受けても異議を申しません。

1. 禁止事項

次の禁止事項に該当する行為が行われた場合には、メールアドレスの取消しはもとより、学則に基づき処分を行うことがあります。また、その行為によって生じた損害等の責任は当該利用者に帰するものとし、損害賠償の責に任ずることとします。

- (1) 公序良俗に反する行為
- (2) 第三者に対する誹謗中傷など人権を侵害する行為
- (3) 第三者の著作権及び特許権など知的財産権を侵害する行為
- (4) 第三者に損害または不利益を与える行為
- (5) 第三者にメールアカウントを再貸与又は譲渡する行為
- (6) 営利を目的とした行為
- (7) 法律に違反する、もしくはそのおそれのある行為
- (8) その他本学が不相当と判断した行為

2. その他の使用に当たっての注意

- (1) メールアドレスの貸し借りやパスワードを他人に教えないでください。
- (2) 他人から不正に利用されないよう、メールアドレス及びパスワードは各自で責任を持って管理してください。
- (3) ネットワーク内の通信量が非常に大きくなるような大容量データを送受信しないでください。



公立大学法人
長岡造形大学
Nagaoka Institute of Design

教務課
940-2088 新潟県長岡市千秋4丁目197番地
tel 0258-21-3351 fax 0258-21-3343
e-mail gakumu@nagaoka-id.ac.jp
<https://www.nagaoka-id.ac.jp/>

